令和７年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

令和８年９月

安曇野市教育委員会

第１　安曇野市教育振興基本計画の進捗管理及び教育事務の点検評価について

１　計画策定の目的

教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）では、教育の目的は「人格の完成を目指し、心身ともに健康な育成を図ること」であるとされています（第１条）。安曇野市教育振興基本計画は、この目的に沿って本市の教育施策全般（狭義の教育施策に加え、一部の福祉等の関連施策を含む。）について定めています。本計画に定めるところにより、幼児期から学童期、青少年期、成年期にいたるまでの各段階に応じた教育と、そのために必要となる諸施策を切れ目なく提供することで、「未来を拓くたくましい安曇野の子ども」「持続可能な社会の創り手」を育むことを目指します。

２　計画の位置付け等

（１）位置付け

本計画は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）により市長が定める教育大綱を兼ねるものであり（第１条の３）、また、安曇野市教育委員会の所管事務の進め方を示すマスタープランです。

（２）計画期間等

第１次計画の計画期間は、令和７年度から令和 10 年度までで、毎年度、安曇野市教育振興基本計画策定検討委員会で管理していきます。

（３）教育事務の点検評価

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条では、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないとされており、この際には、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています（第 26 条）。

本市では、この計画の位置付けを鑑み、この計画の進捗管理と教育事務の点検評価を兼ねることとしています。

3　安曇野市教育振興基本計画策定検討委員会名簿

（１）　名簿

区分	氏　　名	所属団体
教育委員	羽田野　賢二	安曇野市教育委員会 教育委員
学識経験を有する者	谷塚　光典	信州大学大学院教育学研究科 専攻長・教授
学校教育の関係者	一色　保典	三郷中学校 校長
学校教育の関係者	二村　達夫	豊科南中学校学校運営協議会 会長
学校教育の関係者	松田　稔	豊科北小学校運営協議会 会長
社会教育の関係者	那須野　雅好	三郷昆虫クラブ 代表
社会教育の関係者 保護者	嶋田　奈麻美	社会教育委員の会議長 （元）市 PTA 連合会幹事
児童福祉の関係者	塚原　理恵	NPO 法人響育の山里くじら雲 副理事長
公募により選考 された市民	荒深　たつ子	
教育委員会が特に必 要があると認める者	関　昌浩	長野県安曇支援学校 (元)長野県松本盲学校校長

（２）　任期

令和８年８月１日から令和 10 年７月 31 日まで

第２　計画概要について

１　基本理念

教育を取り巻く環境や将来的に社会で求められる人材の要件は変化し続けています。しかし、先の読めない不確実な時代であるからこそ、変化の中で風化しない不変的な理念をもって教育や学びを推進することが必要となります。

このため、本市教育大綱において定めてきた基本理念を、本計画においても引き継ぎ、教育行政推進の基礎としています。

◆基本理念

✧　**子どもに対する教育や支援**
からだを動かし、頭で考え、心に感ずる
“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”
を育みます。

✧　**生涯を通じた学び**
すべての人が生涯を通じて学び合い、
文化・芸術のかおり高い安曇野を目指します。

２　基本方針

基本理念を実現するため、本計画では、６つの方針を定めます。

◆基本方針１【子ども・子育て】

子ども・若者が健やかに成長し、安心して暮らせるまちの実現

安曇野の自然や地域の中で、体験・交流活動を充実させ、安心して子育てができる環境を整えます。また、一人ひとりの個性を認め合う共生社会の実現を目指し、すべての子どもの権利を尊重します。

◆基本方針２【学校教育】

郷土愛と未来を切り拓く力を育む魅力ある学校教育の実現

協働的・探究的な学びを通じて特色と魅力ある学校づくりを推進します。郷土への愛着と誇りを持ち、他者を尊重し対話を重ね、主体的に学び、考え、判断し、行動する児童生徒を育みます。併せて、学び続ける教職員を支援します。

◆基本方針３　【家庭・地域との連携】

学校と家庭、地域等との連携による豊かな学びと心の育成の実現

学校と家庭、地域が連携・協働する体制の一層の充実を図り、豊かな人間性と社会性、郷土への理解を育む学びを地域ぐるみで支えます。

◆基本方針４　【生涯学習】

生涯を通じ学ぶ喜びを実感できる地域の実現

多様化する学びの要望に応え、情報や人と人とが出会う環境を整えます。また、様々な人々が集い交流し、生涯にわたって自分らしく自ら学習活動に参加できる地域社会をつくります。

◆基本方針５　【スポーツ】

スポーツを通じて心や体を健やかに育む地域の実現

幼児期からの成長の土台づくりと体力の向上に取り組みます。また、幅広い世代のニーズに合わせ、スポーツに親しみ、スポーツを楽しむ環境を充実させます。

◆基本方針６　【文化芸術】

文化芸術を育むとともに歴史・文化遺産を継承し続ける地域の実現

伝統文化や遺産に親しみ、それを継承し、新たな文化・芸術活動の創造や交流を推進するとともに、安曇野らしい文化・芸術の更なる振興を図ります。

3　施策体系

基本理念	基本方針	施策目標
①からだを動かし、頭で考え、心に感ずる“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を育みます。 ②すべての人が生涯を通じて学び合い、文化・芸術のかおり高い安曇野を目指します。	**基本方針1** **【子ども・子育て】** **子ども・若者が健やかに成長し、安心して暮らせるまちの実現**	1-1: 地域資源を活かした質の高い教育・保育の提供
		1-2: 困難を有する子ども、若者、家庭への支援
	基本方針2 **【学校教育】** **郷土愛と未来を切り拓く力を育む魅力ある学校教育の実現**	2-1: 協働的・探究的な学びの充実
		2-2: 郷土への愛着と誇りを育む学びの充実
		2-3: 健やかな心身と豊かな心の育成
		2-4: きめ細かな教育・支援の充実
		2-5: 安全・安心な教育環境の整備
	基本方針3 **【家庭・地域との連携】** **学校と家庭、地域等との連携による豊かな学びと心の育成の実現**	3-1: 学校と家庭、地域の連携による教育体制の整備
		3-2: 地域で子どもの成長を支える仕組みづくり
		3-3: 地域全体での子どもの権利の共有
	基本方針4 **【生涯学習】** **生涯を通じ学ぶ喜びを実感できる地域の実現**	4-1: 学習機会の充実
		4-2: 学習成果の活用
		4-3: 多様化する市民の「学び」に応える質の高い図書館づくり
		4-4: 子どもの読書活動の推進 （安曇野市子ども読書活動推進計画）
	基本方針5 **【スポーツ】** **スポーツを通じて心や体を健やかに育む地域の実現**	5-1: 子どもの運動・スポーツ機会の充実
		5-2: スポーツを通した交流・学びの促進
	基本方針6 **【文化芸術】** **文化芸術を育むとともに歴史・文化遺産を継承し続ける地域の実現**	6-1: 文化芸術活動の推進
		6-2: 歴史・文化遺産の保存と活用

基本施策		関連計画
1	教育・保育サービスの充実	安曇野市 こども計画
1	子育て家庭、生活困窮家庭への支援	
2	ひとり親家庭への支援	
3	障がいや発達特性のある子ども、家庭への支援	
4	児童虐待防止対策の充実	
5	ひきこもりの予防と自立支援	
1	学力の向上推進・授業づくりの支援	
2	ICT*等を活用した学びの促進	
3	キャリア教育の推進	
4	主体的に社会の形成に参画する意識や態度の育成	
1	地域資源を活かした学びの充実	
2	学校給食の充実、食育の推進	
1	思いやりの育成、いじめの防止、自殺予防対策の推進	
2	児童生徒の体力の向上	
1	配慮を要する子どもへの支援の充実	
2	多様な学びの場の充実	
3	進学等への経済的負担の軽減	
1	交通安全、防犯・防災教育その他の危機管理の推進	
2	学校教育施設の整備と環境の充実	
1	学校と家庭、地域による協働の充実	
2	部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行	
3	家庭教育への支援（規則正しい生活習慣等の定着の促進）	
1	子どもの居場所づくり	安曇野市 こども計画
2	地域ぐるみの青少年育成	
1	子どもの権利の周知・啓発	
1	生涯学習に取り組みやすい環境づくり	安曇野市 生涯学習 推進計画
2	生涯学習の機会の提供	
3	利用満足度の高い施設運営	
1	成果発表の機会の創出	
2	成果を活かした地域貢献	
1	市民への新鮮な資料や最新の情報の提供	安曇野市 図書館 基本計画
2	様々な「学び」の場としての図書館サービスの充実	
1	家庭における読書活動の促進	
2	学校などにおける読書活動の促進	
3	地域における読書活動の促進	
1	運動・スポーツに親しむ環境づくり	安曇野市 スポーツ 推進計画
1	地域でのスポーツを通した交流、健康づくりの促進	
2	総合型地域スポーツクラブ*の運営支援と新たな体制の基盤づくり	
1	文化芸術活動の支援	安曇野市 文化振興 計画
2	文化芸術施設の運営	
1	地域文化の継承	
2	文化財、重要文書の保存と活用の推進	

第３　令和７年度事業の成果等

以下では、６つの基本方針ごとに、その概要（方向性）、数値目標、令和７年度までの実績値、数値目標を達成するために実施した主要な施策とその成果についてまとめています。

◆基本方針１【子ども・子育て】
子ども・若者が健やかに成長し、安心して暮らせるまちの実現

１　施策の方向性

子どもや若者は、未来を拓く原動力であり、彼らの成長と発展は地域社会の未来に直結しています。本市には、豊かな自然環境や文化的資源と温かい地域社会が存在します。これらの資源を最大限に活用することで、安心して子育てができる環境を整備していきます。また、子どもたちの困難が多様化・複雑化する中で、子どもたちの権利を尊重し、彼らが持つ多様な個性や可能性を引き出すための取組を強化し、子ども、若者が健やかに成長し、安心して暮らせるまちを目指します。以上を実現するため、本計画に基づいた「安曇野市こども計画」を策定し、計画的に子ども・子育て施策を推進していきます。

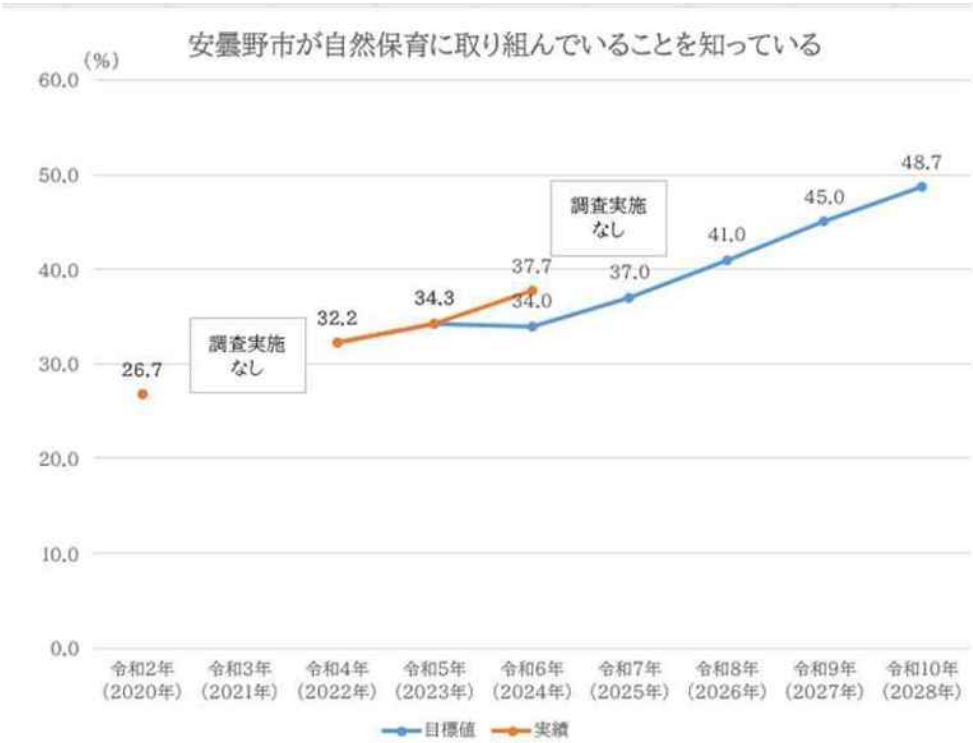
２　数値目標

指標	令和５年度	令和７年度
「安曇野市が自然保育に取り組んでいることを知っている」と回答した市民の割合	34.3%	調査なし
「出産・子育てがしやすい地域である」と思う市民の割合	34.6%	27.4%

（出典:市民意識調査）

3　令和７年度事業の成果

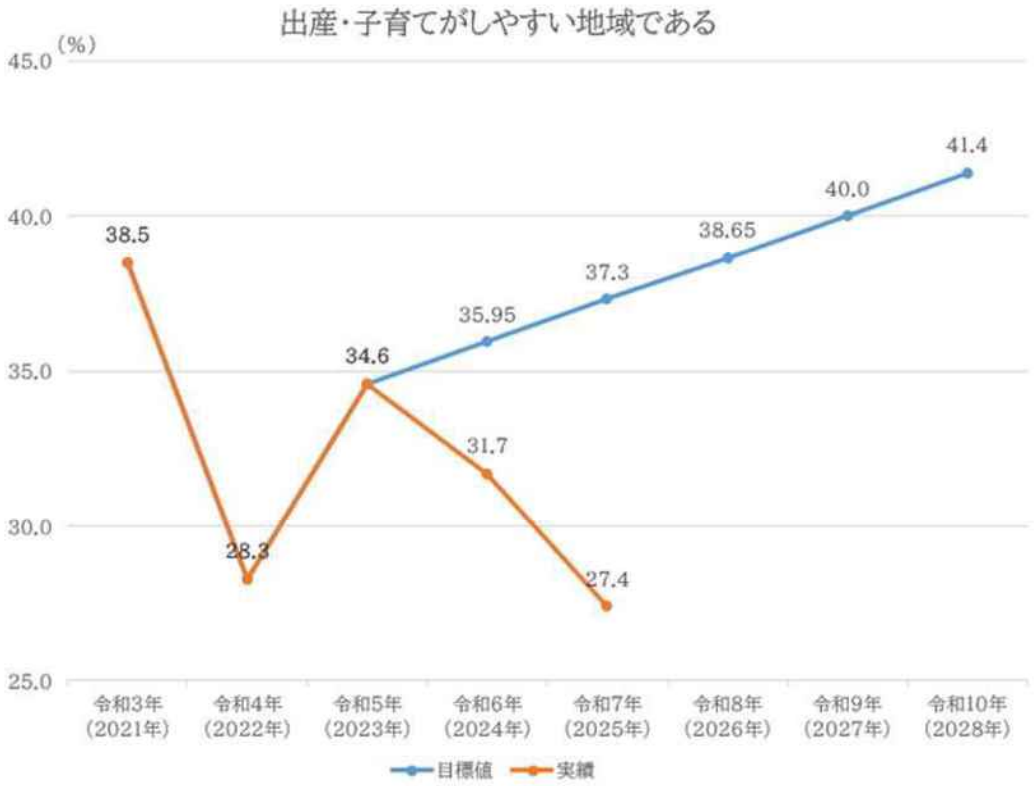
（１）　「安曇野市が自然保育に取り組んでいることを知っている」と回答した市民の割合



施策総括	安曇野市の認定こども園・幼稚園の日常場面を、例年より積極的に SNS に掲載しました。安曇野自然保育 PR のためのインスタグラムの投稿数を 356 投稿（R6）から 500 投稿（R7）と大きく数を増やしたからか、フォロワー数が 640 人（R6）から 1,035 人（R7）と増加しました。
反省・課題	SNS に掲載するために、写真と記事を組み合わせて見やすいよう作り込む必要があります。このためには、写真の選定や掲載不可内容のチェック、園による内容確認など作業量が膨大になっています。
改善点	これまでの事業実施により安曇野ならではの自然保育の取組みに対する認知が広がっていることから、今後はインスタグラムの掲載については、記事を一から作成するのではなく、認定こども園が別で作成している園の活動ページへのリンクを貼る方式にするなど事業の展開と事務の効率化の両立を図ります。

（子ども家庭支援課）

（２）「出産・子育てがしやすい地域である」と思う市民の割合



施策総括	市民意識調査の自由回答欄では、課題として主に児童クラブ等のハード面の整備が需要に追い付いていない点や、他市町村に比べ、子育て世帯への経済的支援が少ない点が指摘されており、そういった評価が数値に反映されていると考えられます。
反省・課題	家庭環境や働き方の変化に伴い児童クラブ利用希望者が増加しており、その増加割合も大きくなってきています。また、現時点で小学６年生まで受入ができていない学校が２校（豊科南小・三郷小）ある状況です。
改善点	児童クラブのキャパシティを確保するため、必要な児童クラブにおいては施設整備を行っていきます。

（子ども家庭支援課）

令和８年度	
部	教育部
課	子ども家庭支援課
係等	子ども子育て政策係 ・子育て給付係・子ども家庭相談担当

決算書ページ	117

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	01	児童福祉総務費			
	事業	0103230	児童福祉総務費		施策	子どもを育む環境の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
2,436,096,000	2,427,892,038	0	8,203,962	99.7%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
1,842,678,480		子ども・子育て支援交付金（国）【相談室分】	485,000	子ども・子育て支援交付金（県）【相談室分】	391,000
		児童福祉施設入所負担金判定委託金	10,660	児童扶養手当国庫負担金	91,720,447
		児童手当国庫負担金	1,515,293,665	母子家庭等対策総合支援事業費国庫補助金	4,597,000
		児童手当県費負担金	178,364,443	こどもの生活・学習支援事業補助金	1,360,000
		児童手当返還金	200,000	児童手当過年度返還金	830,000
		児童扶養手当返還金	522,330	児童扶養手当過年度返還金	450,275
		ふるさと寄附基金繰入金	20,000,000	子ども・子育て支援交付金（国）【政策分】	20,414,000
		子ども・子育て支援交付金（県）【政策分】	8,029,000	児童福祉施設入所負担金判定委託金	10,660
				（地方消費税交付金（社会保障財源化分））	(111,000,000)

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　家庭児童相談事業

支援が必要な子どもの把握や支援体制の確立の際は要保護児童地域対策協議会の枠組みを活用し、家庭児童相談室を調整役として円滑な支援を行いました。深刻な事案があった際は、児童相談所や警察署と連携し対応を行いました。

（１）　新規児童相談件数　（単位：件）

年度	児童虐待	養護相談（その他）	保健	障がい	非行	育成	その他	合計
Ｒ５	92	174	0	4	6	29	12	317
Ｒ６	89	188	0	2	9	34	6	328
Ｒ７	83	195	6	2	7	20	7	320

※厚生労働省所掌「福祉行政報告例」が、令和７年度分報告よりこども家庭庁所掌「こどもの福祉と保健に関する状況報告」へ変更に伴い、当該報告と同様の相談種別に変更しました。令和６年度以前の相談件数については、令和７年度報告の相談種別分類へ再計算し修正しています。

（２）児童相談所と連携した対応　（単位：件）

年度	一時保護対応	児童福祉司指導	児童家庭センター指導	児相から市への協力要請	訓告・誓約	合計
Ｒ５	55	7	2	50	2	116
Ｒ６	37	0	1	48	0	86
Ｒ７	41	5	0	43	0	89

予算	款	03	民生費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	01	児童福祉総務費			
	事業	0103230	児童福祉総務費		施策	子どもを育む環境の充実

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

2　児童手当給付事業

家庭の生活安定、児童の健全育成を図ることを目的に、年度末で18歳以下の児童を養育する保護者に対して、児童手当法に基づき児童手当を支給しました。

○実績

年度	延児童数	支給額	国庫負担金	県費負担金	一般財源
Ｒ７	145,949人	1,870,090,000円	1,515,293,665円	178,364,443円	176,431,892円
Ｒ６	128,030人	1,485,850,000円	1,108,014,439円	190,705,662円	187,129,899円

3　児童扶養手当給付事業

ひとり親家庭等の生活安定と自立促進・児童福祉の増進を図ることを目的に、児童扶養手当法に基づき、年６回（５月・７月・９月・11月・１月・３月）児童扶養手当を支給しました。

○実績

年度	延児童数	支給額	国庫負担金	一般財源
Ｒ７	9,332人	274,793,850円	91,720,447円	183,073,403円
Ｒ６	9,237人	265,236,410円	88,678,630円	176,557,780円

4　母子家庭等対策総合支援事業

ひとり親家庭の経済的安定を図るため、就業に有利な資格・技術を身につけるための養成機関での修業を支援する取組みを行いました。

○実績　（単位：円）

事業名	利用者数	支給額
自立支援教育訓練給付金事業	0人	0円
高等職業訓練促進給付金事業	4人	3,337,500円

5　子育て応援手当給付事業（市独自事業）

教育・保育施設等を利用せず、第２子以降の就学前児童を家庭で保育する養育者に対して、児童１人あたり月額3,000円を支給し、子育て家庭への経済的負担の軽減を図りました。

○実績

年度	延児童数	支給額
Ｒ７	6,750人	20,250,000円
Ｒ６	7,354人	22,062,000円

6　こどもの生活・学習支援事業

ひとり親家庭等の児童の受験費用に対して支援金を給付することより、進学に向けたチャレンジを支援しました。

○実績

区分	延児童数	支給額
大学等受験料支援金	48人	1,741,700円
大学等模試受験料支援金	5人	30,900円
高校等模試受験料支援金	8人	41,500円

予算	款	03	民生費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	01	児童福祉総務費			
	事業	0103230	児童福祉総務費		施策	子どもを育む環境の充実

その３

主要な施策（事務事業）の成果の概要

7　ファミリー・サポート・センター事業

小学生以下の子どもの預かり等の援助を受けたい人（依頼会員）と、行いたい人（協力会員）との連絡調整業務を委託して実施し、地域の相互援助活動を推進しました。

（１）支援件数　会員1,427人（協力175人・依頼1,218人・両方34人）（単位：件）

年度	計
Ｒ７	2,537
Ｒ６	2,363

（２）子ども子育て支援交付金（子育て援助活動支援事業）（単位：円）

総事業費	国庫補助金	県費補助金	一般財源
10,553,065	2,820,000	3,517,000	4,216,065

8　あづみの自然保育ブランディング事業

市内の一部の認定こども園で、園児に田植えから稲の世話、収穫までの一連の米作りを体験してもらう取り組みを行っています。

またその作業風景などをＳＮＳにより発信して、市内外の皆さんにもＰＲし、観光客や移住者誘致に繋げる取り組みも行っています。

令和７年度は、穂高有明あおぞら認定こども園で園庭に設置してあるミニ田んぼにより、その他に８園で、タライを使用したプチ田んぼにより田んぼ体験を行いました。

（１）園庭ミニ田んぼ・プチ田んぼ事業

・園庭ミニ田んぼ　１園（穂高有明あおぞら認定こども園）

・園庭プチ田んぼ　８園（南穂高認定こども園、穂高幼稚園ほか）

（２）自然保育の情報発信

ＳＮＳを活用した情報発信（開設時よりＲ８．６まで）

・インスタグラム　500投稿　フォロワー数　1,035人

・フェイスブック　448投稿　フォロワー数　137人

・Ｘ（旧ツイッター）　フォロワー数　200人

上記の評価と課題等

家庭児童相談事業については、新規の相談件数は横ばい傾向になっています。相談理由は、保護者の疾病や家族環境による養護相談や、支援を必要とする妊婦等に関する相談対応が増加傾向となりました。こども家庭センターにて、母子保健部門との連携強化を図り、妊娠・出産期からの継続支援に努めています。

子育て家庭への各種手当の支給事業を実施することにより、子育て家庭の生活安定、児童の健全育成を図ることができました。

ファミリー・サポート・センター事業は、地域力を活かし、安定した支援サービスを提供出来ました。積極的な利用を促進するため、委託事業者と協力しながら事業強化を図っていきます。

あづみの自然保育ブランディング事業は、安曇野ならではの自然保育の取り組みを市内外に向けて効果的に情報発信ができました。今後も各園の特色を活かし、継続的に取り組んでいきます。

令和８年度	
部	教育部
課	子ども家庭支援課
係等	子ども子育て政策係

決算書ページ	121

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	01	児童福祉総務費			
	事業	0103280	児童クラブ整備事業		施策	子どもを育む環境の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
16,244,000	15,809,200	0	434,800	97.3%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
15,000,000		ふるさと寄附基金繰入金	15,000,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　児童クラブ受入れ施設の確保

利用希望者が急増している放課後児童クラブに関して、受け入れ先を確保するために、学校内余裕教室の改修、児童館など市関連の校外施設の活用、専用施設の検討などを進めています。

令和７年度は以下の施設の改修等を行いました。

（１）三郷小学校の校内に児童クラブ室を整備

旧被服室を児童クラブ室に改修し51人分の受入スペースを確保

・床をタイルカーペットに改修

・下足入れ、ロッカー、庇の設置

・児童クラブ部分と学校部分の境にパイプカーテンを設置

（２）豊科北小学校　児童クラブ専用施設新築事業に着手

・実施設計業務に着手（債務負担行為）

（３）豊科南小学校及び穂高南小学校　児童クラブ専用施設新築事業に着手

・基本設計業務に着手（債務負担行為）

上記の評価と課題等

児童クラブ利用希望者が年々急増しており、特に豊科南小・豊科北小・穂高南小・三郷小において顕著です。この４校については児童クラブ専用施設の新設が急務であると考え、豊科南小・豊科北小・穂高南小については令和７年度内に設計に着手、令和９年度中のしゅん工を目指します。

三郷小については現在調整中ですが、引き続き専用施設新築の可能性を模索していきます。

令和８年度	
部	教育部
課	子ども家庭支援課
係等	子ども子育て政策係

決算書ページ	121

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	01	児童福祉総務費			
	事業	0103285	地域子育て支援拠点事業		施策	子どもを育む環境の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
500,000	500,000	0	0	100.0%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　安曇野市地域子育て支援拠点事業実施支援補助金

身近な場所に子育て中の親子が気軽に集え、打ち解けた雰囲気の中で相互の交流を行い、子育ての不安や悩みを安心して相談できる拠点施設の需要が高まっていることから、拠点施設を運営する団体を支援し、その施設・運営の充実を目指します。

（１）令和７年度交付実績　　１件　500,000円

（２）申請事業者
ＮＰＯ法人子育て支援ぱおぱお（三郷地域）　年間延べ2,224名利用

●地域子育て支援拠点施設とは

子育て中の親子が気軽に集い交流や子育ての悩み相談などができる場所。３歳未満児の６～７割は家庭で子育てしている現状や核家族化・地域のつながり希薄化の進行から、子育ての孤立化などの問題が発生。それら問題を解消する施設として期待されている。

上記の評価と課題等

令和７年度の申請件数は１件となっておりますが、核家族化や生活スタイルの多様化が進む中で地域子育て支援拠点施設の需要は高まっています。このことから、今後も事業を推進し、次年度以降は国及び県の補助を受けて行う補助事業の実施を予定しております。

令和８年度	
部	教育部
課	子ども家庭支援課
係等	児童青少年係

決算書ページ	123

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	02	児童館費			
	事業	0103260	児童館運営費		施策	子どもを育む環境の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
445,283,000	442,762,326	0	2,520,674	99.4%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
194,487,960		児童クラブ負担金	39,405,960	指定寄付金	1,000,000
		児童クラブ負担金滞納繰越分	27,000	企業版ふるさと納税	300,000
		子ども・子育て支援交付金（国庫）	71,071,000	児童館建設事業（こども債）	30,000,000
		子ども・子育て支援交付金（県費）	52,684,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

指定管理委託（安曇野市社会福祉協議会）により、児童館及び放課後児童クラブを運営。子育て家庭の支援と児童の健全育成に努めました。

1　指定管理委託料（児童館9館、児童クラブ 387,275,000円

2　児童館の実績
(1) 児童館利用者総数　85,783人（前年度78,312人）
(2) 地域子育て支援拠点事業（概ね3歳未満親子の児童館利用）　64,941人
(3) 各種イベント
キッズパーク（親子サークル）、育児相談、地域ボランティア事業、移動児童館、児童館祭り、豊科中央児童館オープンイベント　等
(4) 主な工事
三郷児童館遊戯室空調設置工事（前払金）　13,640,000円　※令和8年6月設置完了
堀金児童館遊戯室空調設置工事（前払金）　18,260,000円　※令和8年6月設置完了

3　児童クラブの実績
(1) 児童クラブ利用児童総数　1,503人（前年度1,407人）
通年利用　1,002人
長期利用　501人
(2) 児童クラブ室設置数　20か所

上記の評価と課題等

・児童館
利用者数は前年度比で、約10%利用者が増加しました。身近な子育て拠点として、イベント等工夫を凝らしながら運営してまいります。また、児童館の利用促進のためのポスター、パンフレットを制作、市内各所で掲示、配布しました。
・児童クラブ
核家族化や共働き世帯の増加を受け、入所申請が急増しています。児童クラブ室の不足を受け、施設整備に着手しました。同時に職員確保にも努めています。加えて、クラブの混雑状況について、保護者の皆さまにもお知らせし、譲り合ってのご利用を依頼します。

令和８年度	
部	教育部
課	子ども家庭支援課
係等	児童青少年係

決算書ページ	123

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	02	児童館費			
	事業	0103270	児童館整備事業		施策	子どもを育む環境の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
203,470,000	203,423,400	0	46,600	100.0%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
165,194,000		次世代育成支援対策施設整備交付金（国）	11,197,000		
		次世代育成支援対策施設整備交付金（県）	11,197,000		
		児童館建設事業（こども債）	142,800,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

豊科中央児童館　建替え工事

老朽化が進んでいた豊科中央児童館の現地建て替えを行いました。

(1) 位置　　安曇野市豊科4027番地１（豊科中央公園隣接）
(2) 工期　　令和６年４月22日～令和７年９月12日
(3) 事業費（新築工事分）
- 令和６年９月25日　前払　131,000,000円
- 令和７年５月14日　中間払い　65,000,000円
- 令和７年10月15日　完成払い　133,417,000円
- 合計　329,417,000円

(4) 施設概要
- 敷地面積　964.49㎡、延床面積　428.75㎡、構造　木造平屋建て
- 乳幼児親子のため未満児用遊戯室、相談室を設置
- インクルーシブ遊具設置

上記の評価と課題等

中央児童館の建替え工事は、計画どおり進行し令和７年９月、無事しゅん工いたしました。

令和7年11月1日にはオープニングイベントを開催し、多くの親子連れで賑わいました。新館は、市産カラマツや県産檜を使用しており木材の温かさが感じられる施設となっています。

令和8年度は、同じく老朽化が進行している高家児童館の建て替えに向けた検討、設計に着手いたします。

令和８年度	
部	教育部
課	こども園幼稚園課
係等	保育幼稚園担当

決算書ページ	125

予算	款	03	民生費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	03	保育所費			
	事業	0103290	公立認定こども園整備費		施策	質の高い保育・幼児教育の実現

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
1,165,463,000	1,165,144,445	0	318,555	100.0%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
1,046,100,000		保育所建設事業（特例債）	549,000,000		
		保育所建設事業（施設整備事業債）	372,600,000		
		保育所施設整備事業（こども債）	124,500,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

実施計画に沿って、園舎の建替えや改修に向けた調査・設計、工事等を実施し、安定的な保育サービスを提供するための施設整備を推進しました。

１　主な委託業務

（１）令和７年度　三郷東部認定こども園建設事業　旧園舎用地測量業務委託　4,246,000円

（２）令和７年度　三郷東部認定こども園建設事業　工事監理業務委託　13,170,300円

（３）令和７年度　三郷東部認定こども園建設事業　既存園舎解体工事監理業務委託　1,320,000円

（４）令和７年度　豊科認定こども園改修事業　監理業務委託　3,300,000円

２　主な工事

（１）令和５年度（債務負担行為）三郷東部認定こども園建設事業　建築主体工事　561,000,000円

（２）令和５年度（債務負担行為）三郷東部認定こども園建設事業　電気設備工事　192,500,000円

（３）令和５年度（債務負担行為）三郷東部認定こども園建設事業　機械設備工事　93,720,000円

（４）令和５年度（債務負担行為）三郷東部認定こども園建設事業　園庭整備工事　17,446,000円

（５）令和７年度　三郷東部認定こども園建設事業　既存園舎解体工事　97,680,000円

（６）令和７年度　豊科認定こども園改修事業　大規模改修工事　143,000,000円

上記の評価と課題等

三郷東部認定こども園建設事業が完了しました。今後は適宜点検（１年点検等）を行い不具合等に対応していきます。

豊科認定こども園大規模改修工事が完了しました。

今後も子育て支援の拠点となる認定こども園及び幼稚園の施設整備を計画的に進めていきます。

令和８年度	
部	教育部
課	こども園幼稚園課
係等	保育幼稚園担当

決算書ページ	125

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	03	保育所費			
	事業	0103300	保育企画費		施策	質の高い保育・幼児教育の実現

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
950,671,000	941,840,295	0	8,830,705	99.1%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
648,973,826		保育児童保育料	4,153,680	子どものための教育保育給付費地方単独費用補助金	7,614,000
		子どものための教育保育給付費負担金（国・県）	583,343,079	保育対策総合支援事業補助金	16,000
		子育てのための施設等利用給付費負担金（国・県）	11,572,330	一時的保育料	9,141,000
		子育てのための施設等利用給付費負担金（前年度精算分）（国・県）	510,937	病児・病後児保育利用料	7,800
		子育て支援総合助成金	423,000	子ども子育て支援交付金（国・県）	19,010,000
		保育士加配支援事業補助金	8,240,000	保育料軽減事業補助金	4,942,000

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　私立の教育・保育施設等（保育所、幼稚園、認定こども園、地域型保育事業）及び市外公立園に施設型給付費又は地域型保育給付費を支給しました。

対象施設	区分	給付費	利用児童数 ※利用最終月
細萱保育園	保育所	82,991,770円	57人
認定やまぶきこども園	認定こども園	109,207,260円	75人
花園認定こども園	認定こども園	90,025,350円	60人
あづみ野おとぎ保育園	地域型保育（小規模保育事業）	44,315,070円	18人
あづみ野第２おとぎ保育園	地域型保育（小規模保育事業）	41,497,430円	19人
あづみ野第３おとぎ保育園	地域型保育（小規模保育事業）	41,537,770円	19人
ニチイキッズ安曇野保育園	地域型保育（小規模保育事業）	49,982,350円	22人
ニチイキッズ穂高保育園	地域型保育（小規模保育事業）	54,902,420円	22人
サンライズキッズ保育園安曇野園	地域型保育（小規模保育事業）	43,170,050円	22人
サンライズキッズ保育園豊科園	地域型保育（小規模保育事業）	38,443,640円	18人
穂高みらいく保育園	地域型保育（小規模保育事業）	45,233,290円	21人
スクルドエンジェル保育園安曇野豊科園	地域型保育（小規模保育事業）	45,197,360円	21人
ハートフルキッズ豊科保育園	地域型保育（小規模保育事業）	48,377,150円	18人
きらり穂高病院保育園	地域型保育（事業所内保育事業）	40,805,750円	19人
きらり諏訪赤十字病院園	地域型保育（事業所内保育事業）	4,409,490円	1人
保育室モモ	地域型保育（家庭的保育事業）	18,255,260円	5人
松本シュタイナー認定こども園ひなたぼっこ	認定こども園	10,847,460円	5人
ISN島内キャンパス	認定こども園	7,944,110円	13人
ISN南松本キャンパス	認定こども園	603,324円	1人
松本光明幼稚園	認定こども園	940,714円	1人
白百合幼稚園	認定こども園	983,468円	2人
やよい認定こども園	認定こども園	1,010,520円	1人
松本いずみ幼稚園	幼稚園	848,632円	2人
信学会松本神映幼稚園	幼稚園	6,667,714円	9人
信学会松本南幼稚園	幼稚園	1,944,252円	3人
松本中央幼稚園	幼稚園	149,550円	1人
認定こども園雷鳥保育園	認定こども園	2,055,126円	1人
計		832,346,280円	456人

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	03	保育所費			
	事業	0103300	保育企画費		施策	質の高い保育・幼児教育の実現

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

２　幼児教育・保育の無償化に伴い、子育てのための施設等利用給付を行いました。
（１）一時預かり事業　73,000円
（２）認可外保育施設等　11,337,300円
（３）新制度未移行園　0円
（４）ファミリー・サポートセンター事業　14,700円
（５）国立大学付属幼稚園　73,200円
（６）１号認定預かり保育料　786,600円

３　広域保育の状況

区分	児童数	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳
市外への委託	41 人	0 人	0 人	3 人	11 人	12 人	15 人

４　一時預かり事業の利用状況

登録者数	月平均利用者数	延べ利用者数
177 人	238.1 人	2,858 人

５　病児・病後児保育事業の利用状況

登録者数	月平均利用者数	延べ利用者数
93 人	20.3 人	244 人

６　認可外保育施設等に補助金を交付しました。　（単位：円）

対象施設	児童処遇向上（保育分）	児童処遇向上（施設整備分）	衛生・安全対策	信州やまほいく保育料負担軽減	補助金合計
保育室モモ	201,178	129,800	10,000		340,978
野外保育森の子	2,113,340	48,320	15,000	319,900	2,496,560
自由保育所ひかりの子	865,424	0	0	68,550	933,974
安曇野シュタイナーこども園おひさま	1,359,952	0	0	0	1,359,952
託児所アッパレはうす	657,754	3,144	0		660,898
計	5,197,648	181,264	25,000	388,450	5,792,362

上記の評価と課題等

子ども・子育て支援法に基づいて子どもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保されるよう、子ども及びその保護者、保育施設に対して必要な支援事業を計画的に実施しました。
一時預かり事業については、事業が広く周知されたことや市公式LINEを用いた電子申請が可能となったこと等を受けて利用者が増加し、ニーズに対応しています。
また、認可外保育施設へ補助金を交付することで多様な保育の実施や児童の処遇向上を図りました。

令和８年度	
部	教育部
課	こども園幼稚園課
係等	保育幼稚園担当

決算書ページ	125

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	03	保育所費			
	事業	0103310	認定こども園管理費		施策	質の高い保育・幼児教育の実現

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
2,266,581,000	2,247,777,580	0	18,803,420	99.2%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
298,640,197		保育児童保育料	111,901,200	園庭芝生化事業（こども債）	128,200,000
		突発長時間保育料	822,800	保育施設等園庭芝生化導入補助金	1,140,000
		保育児童保育料滞納繰越金	200,100	電源立地地域対策交付金	10,875,000
		他市町村保育児童保育料	787,040	企業版ふるさと納税	2,800,000
		子ども・子育て支援体制整備総合推進事業補助金	224,000	ふるさと寄附基金繰入金	20,000,000
		保育料軽減事業補助金	20,689,000	西穂高認定こども園太陽光発電売電	1,057
				指定寄付金	1,000,000

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　公立認定こども園（18園）で教育・保育を実施しました。

（1）利用状況　（単位：人）

施設名	定員	利用児童数	年齢別内訳 ※令和８年３月１日時点					
			０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳
豊科認定こども園	150	128	5	7	12	33	26	45
豊科南部認定こども園	160	151	5	9	12	41	39	45
南穂高認定こども園	190	180	2	16	23	43	46	50
たつみ認定こども園	105	111	0	11	15	25	22	38
アルプス認定こども園	100	101	2	13	18	24	18	26
上川手認定こども園	80	40	0	3	6	9	12	10
有明の森認定こども園	160	100	4	8	14	22	21	31
有明あおぞら認定こども園	160	118	1	10	12	29	33	33
西穂高認定こども園	220	220	7	10	24	50	67	62
北穂高認定こども園	90	84	2	6	15	18	25	18
穂高認定こども園	200	184	6	11	12	38	58	59
三郷北部認定こども園	150	131	6	13	11	38	29	34
三郷南部認定こども園	160	145	7	8	14	42	33	41
三郷東部認定こども園	189	142	2	10	14	43	33	40
三郷西部認定こども園	70	52	0	8	8	16	7	13
堀金認定こども園	250	204	4	18	22	48	54	58
明科北認定こども園	90	31	3	2	6	7	6	7
明科南認定こども園	130	114	3	9	17	30	27	28
計	2,654	2,236	59	172	255	556	556	638

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	03	保育所費			
	事業	0103310	認定こども園管理費		施策	質の高い保育・幼児教育の実現

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

（２）保育方針等

ア　職員体制（18園中２園委託）

園長16人、主任保育士16人、保育士62人

会計年度任用職員290人（保育士233人、保育補助34人、看護師5人、事務補助18人）

計384人

イ　保育理念

一人ひとりの子どもを大切にしながら、子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障し、家庭や地域から信頼される認定こども園を目指しています。

ウ　保育目標

○命（自分・人・生物）や物を大切にする子ども
○あいさつができる子ども
○元気に遊ぶ子ども
○意欲的に取り組み、やりぬこうとする子ども
○友だちと力を合わせ、認め合える子ども
○人の話を聴き、自分の気持ちを伝えたり、表現できる子ども
○自然の中で豊かな感性を育み、表現できる子ども

２　広域保育の状況

区分	児童数	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳
市外からの受け入れ	9 人	0 人	2 人	2 人	2 人	1 人	2 人

３　公立認定こども園（18園）の施設管理

施設修繕、物品修繕、各種器具点検調整、緊急非常通報警備、消防設備点検、電気工作物点検、除雪、必要工事等を実施しました。

（１）主な修繕

ステージ緞帳取替修繕（堀金認定こども園）　597,960円
館名サイン修繕（北穂高・有明の森認定こども園）　737,000円
プールろ過機逆流ポンプ修繕（穂高認定こども園）　425,700円

（２）主な委託業務

認定こども園芝生化事業　アルプス認定こども園外３園　園庭整備工事設計業務委託　2,468,400円
保育業務支援システム運用保守業務委託　5,346,000円
明科北認定こども園保育業務委託料　53,855,077円
三郷西部認定こども園保育業務委託料　49,657,000円
豊科地域・堀金認定こども園　園庭芝生初期維持管理業務委託　5,885,000円

（３）主な工事

木製コンビネーション遊具更新工事（堀金認定こども園）　4,818,000円
令和６年度（債務負担行為）認定こども園芝生化事業
　豊科地域認定こども園（４園）　園庭整備工事　103,642,000円
令和６年度（債務負担行為）認定こども園芝生化事業
　堀金認定こども園　園庭整備工事　43,087,000円

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	03	保育所費			
	事業	0103310	認定こども園管理費		施策	質の高い保育・幼児教育の実現

その３

主要な施策（事務事業）の成果の概要

４　認定こども園（18園）の運営管理

認定こども園の運営に必要な保育用品等を購入するとともに、施設の適切な維持管理を行うことができました。

（単位：円）

施設名	報償費	需用費	役務費	委託料	使用料及び賃料	備品購入費
豊科認定こども園	30,000	6,273,523	335,656	152,970	13,549	809,410
豊科南部認定こども園	30,000	6,122,317	289,309	93,940	11,712	198,730
南穂高認定こども園	30,000	7,205,309	262,633	34,760	9,297	613,813
たつみ認定こども園	30,000	4,663,647	342,099	86,680	26,400	172,000
アルプス認定こども園	30,000	4,268,767	223,483	98,340	14,112	211,140
上川手認定こども園	30,000	3,978,410	195,377	40,920	26,400	578,732
有明の森認定こども園	30,000	5,763,934	213,833	116,160	27,536	0
有明あおぞら認定こども園	30,000	5,603,186	346,167	65,340	93,720	177,100
西穂高認定こども園	30,000	9,834,847	412,338	585,420	13,267	490,620
北穂高認定こども園	30,000	5,314,451	162,750	21,780	52,647	0
穂高認定こども園	30,000	7,995,579	329,301	21,780	26,669	195,000
三郷北部認定こども園	30,000	5,977,372	410,150	118,800	15,996	99,800
三郷南部認定こども園	30,000	6,017,250	210,882	118,800	42,390	250,990
三郷東部認定こども園	30,000	7,070,488	117,465	78,210	54,562	0
三郷西部認定こども園	36,000	4,083,012	336,004	185,570	25,137	330,000
堀金認定こども園	30,000	10,530,193	444,592	112,530	69,114	569,600
明科北認定こども園	40,000	3,897,087	373,761	99,440	76,207	0
明科南認定こども園	30,000	5,567,153	282,354	101,640	19,249	0
計	556,000	110,166,525	5,288,154	2,133,080	617,964	4,696,935

上記の評価と課題等

児童福祉法及び子ども・子育て支援法に基づき、公立認定こども園の適正な管理運営に努め、幼児期の教育・保育を一体的に提供しています。

子どもたちが安心で快適な生活を送れる保育環境の整備に努め、保育担当と各園が連携して事業を実施することで、施設の維持・保全に安全かつ迅速に対応できました。

保育業務支援システム（コドモン）の運用によって保護者に必要な情報をスムーズに提供することができています。

令和８年度	
部	教育部
課	こども園幼稚園課
係等	保育幼稚園担当

決算書ページ	127

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	児童福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	03	保育所費			
	事業	0103320	認定こども園給食運営費		施策	質の高い保育・幼児教育の実現

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
456,865,000	452,605,140	0	4,259,860	99.1%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
91,547,283		子ども・子育て応援市町村交付金	6,924,000		
		認定こども園職員給食代	29,118,310		
		認定こども園廃油売却代金	34,463		
		保育児童保育料	55,470,510		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

業務の安全面・衛生面に留意し、民間活力を生かした効率的な給食調理業務の運営及び食育の推進を図るため、公立認定こども園18園の給食調理業務を民間委託しました。また、私立認定こども園等で提供する給食の材料費高騰に伴う増額分の負担事業として補助金を交付しました。

１　主な委託業務
（１）給食調理等業務委託（Aグループ）　43,863,600円
　穂高、西穂高、北穂高
（２）給食調理等業務委託（Bグループ）　49,558,080円
　有明の森、有明あおぞら、堀金
（３）給食調理等業務委託（Cグループ）　46,292,400円
　三郷北部、三郷南部・三郷東部・三郷西部
（４）給食調理等業務委託（Dグループ）　44,246,400円
　豊科、豊科南部、たつみ、アルプス
（５）給食調理等業務委託（Eグループ）　45,028,500円
　南穂高、上川手、明科北、明科南

２　主な補助金
（１）給食材料費補助金（私立認定こども園等）　3,504,688円
（２）給食材料費補助金（認可外保育施設）　81,760円

上記の評価と課題等

市と給食調理業務委託業者との連携により、日常的な衛生管理と点検を実施することで、安全・安心でおいしい給食作りに努めました。
今後も子どもたちの健やかな発育・発達を目指し、栄養バランスに配慮した給食を提供していきます。
私立認定こども園等に給食材料費補助金を交付したことで、給食費の値上げをせずに、園児にこれまでどおりの栄養バランスを保った給食を提供することができました。

令和８年度	
部	教育部
課	こども園幼稚園課
係等	保育幼稚園担当

決算書ページ	219

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	04	幼稚園費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	01	幼稚園費			
	事業	0110295	穂高幼稚園運営費		施策	質の高い保育・幼児教育の実現

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
98,743,000	95,547,972	0	3,195,028	96.8%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
21,681,200		幼稚園預かり保育料	81,200		
		幼稚園施設整備事業（こども債）	21,600,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　公立幼稚園で教育・保育を実施しました。

ア　職員体制

園長１人、主任教諭１人、教諭２人

会計年度任用職員８人（保育士４人、保育補助２人、看護師１人、事務補助１人）

計12人

イ　教育目標　『たくましく　しなやかな　心と体を育む』

ウ　教育重点

〇安心した環境の中で、一人ひとりが輝いて過ごす

〇幼児期の「学び」は「環境を通した遊び」であること

〇様々な事物や人との関わりの中で、豊かな人間性を育む

2　入園児数等　（令和８年３月１日現在）

	３歳児	４歳児	５歳児	合計
園児数	20人	26人	32人	78人

3　施設の維持管理、修繕・工事

（１）主な修繕

汚物流しフラッシュ弁取替（年長組）修繕　97,900円

（２）主な工事

プール改修工事　14,047,000円

屋根改修工事　11,605,000円

上記の評価と課題等

幼児期の遊びや豊かな経験が人生の基盤を作るため、地域の方や専門分野の方を招き総合的な幼児教育・保育に取り組みました。

また、幼児期の学びである「環境を通した遊び」として、自然と触れ合い、命の大切さを学ぶ機会を積極的に取り入れました。

今後は多様性の尊重やインクルーシブ保育を推進し、子どもたちが対等な関係性を保ちながら助けあえるクラスづくりを行っていきます。

令和８年度	
部	教育部
課	こども園幼稚園課
係等	保育幼稚園担当

決算書ページ	221

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	04	幼稚園費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	01	幼稚園費			
	事業	0110300	穂高幼稚園給食運営費		施策	質の高い保育・幼児教育の実現

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
14,629,000	14,162,529	0	466,471	96.8%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
3,163,448		子ども・子育て応援市町村交付金	180,000		
		幼稚園給食費	2,004,455		
		幼稚園職員給食代	977,920		
		幼稚園廃油売却代金	1,073		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

業務の安全面・衛生面に留意し、民間活力を生かした効率的な給食調理業務の運営及び食育の推進を図るため、給食調理業務を民間委託しました。

○　主な委託業務
給食調理等業務委託業務（Bグループ）　7,716,720円

上記の評価と課題等

市と給食調理業務委託業者との連携により、日常的な衛生管理と点検を実施することで、安全・安心でおいしい給食作りに努めました。
今後も子どもたちの健やかな発育・発達を目指し、栄養バランスに配慮した給食を提供していきます。

基本方針２【学校教育】
郷土愛と未来を切り拓く力を育む魅力ある学校教育の実現

１　施策の方向性

「からだを動かし、頭で考え、心に感ずる“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”」を育むために、学校教育は中心的な役割を果たします。学校教育においては、協働的・探究的な学びを大切にし、志高く未来を切り拓く力の育成に取り組みます。また本市の豊かな自然や文化を活かした学びを通して、郷土への愛着と誇り、他者への思いやりの心を育むとともに、児童生徒が困りごとや不安があるときに相談できる、行きたい、学びたいと思う魅力ある安全・安心な学校を目指し、必要な施策を推進します。

２　数値目標

指標	令和５年度	令和７年度
「主体的･対話的で深い学びができている」と回答した児童生徒の割合	83.1%	85.9%
学校給食での地場産物（安曇野産）の使用割合	28.1%	33.7%
「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると感じている」児童生徒の割合	小学生 70.5% 中学生 68.3%	小学生 77.1% 中学生 73.2%

（出典：文部科学省「全国学力･学習状況調査」および学校教育課作成資料）

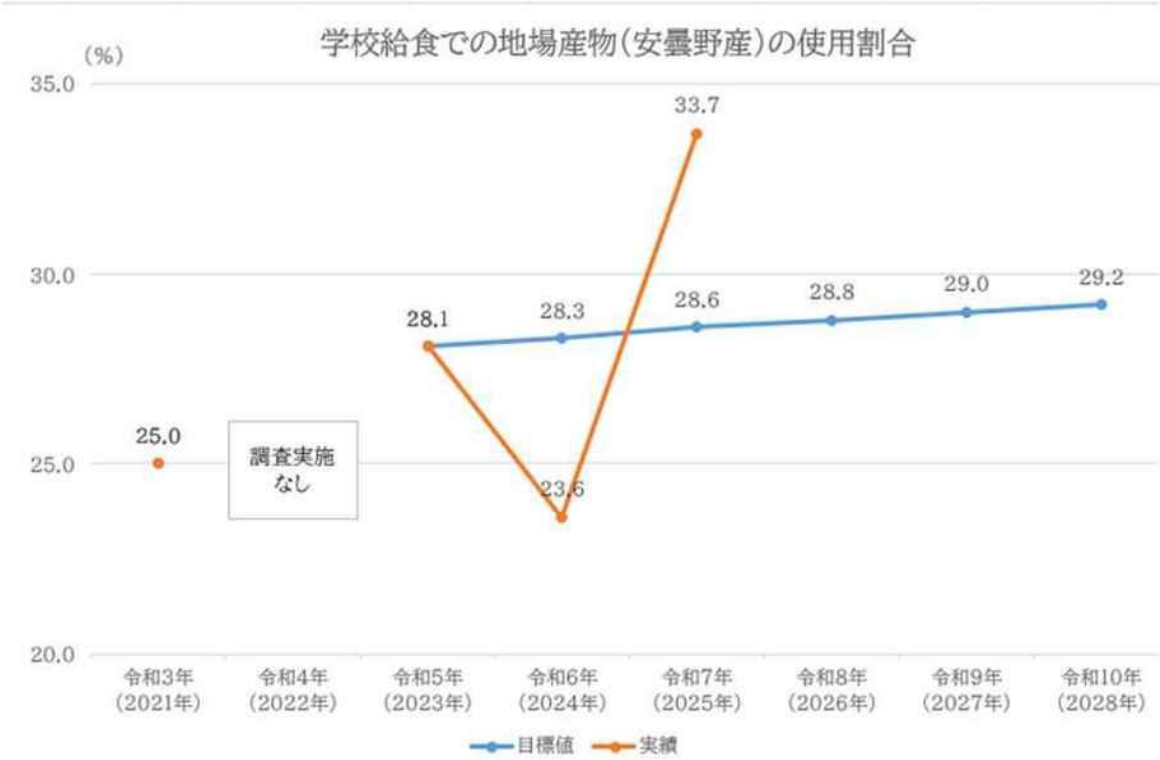
３　令和７年度事業の成果

（１）「主体的・対話的で深い学びができている」と回答した児童生徒の割合

施策総括	中学校区ごとで育てたい子ども像を設定し、９年間の目標と見通しをもって、成長段階に応じた系統性・継続性・連続性に考慮した学びのありかたを考え実践しました。
反省・課題	育てたい（目指す）子どもの姿と、その達成のためのアプローチ方法を明確に設定する必要があります。
改善点	目指す子どもの姿と、アプローチ方法を分けて設定します。各学校区では、地域性を生かした学習を展開しながら、ふるさと学習の推進と情報活用能力の育成に努めます。

（学校教育課）

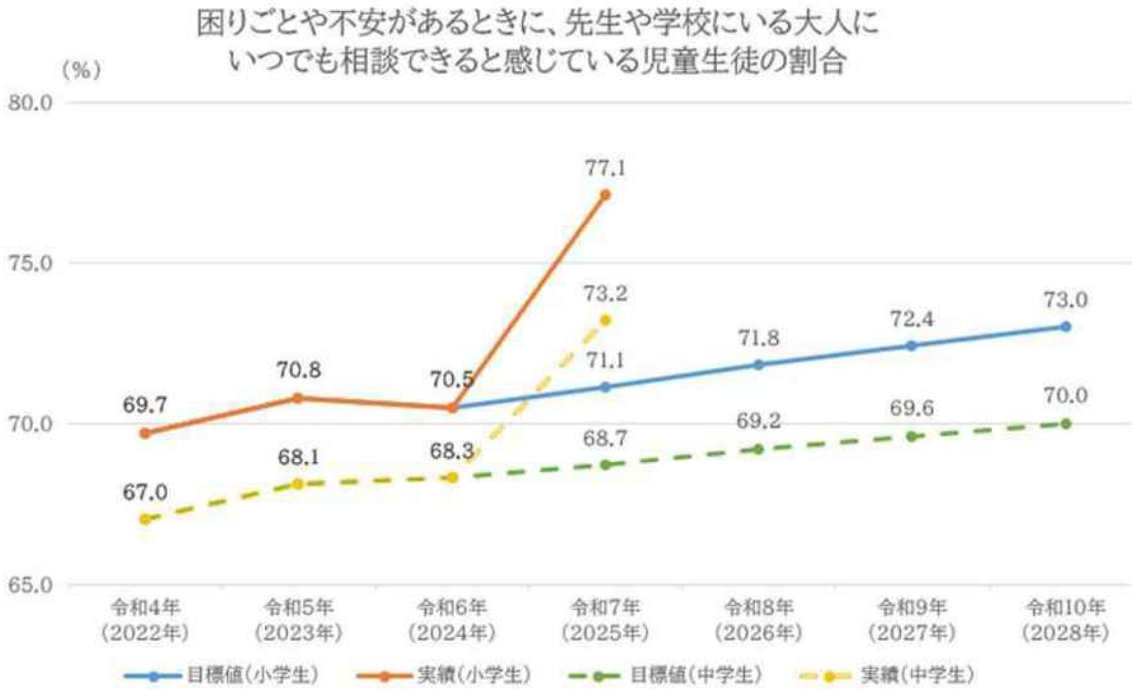
（２）学校給食での地場産物（安曇野産）の使用割合



施策総括	令和７年度は生産者団体等（農業者）や JA と地域食材について情報交換を実施しました。生産者団体等と交流を深める中で、季節を感じることができる地場産物の学校給食への活用を図ることができました。
反省・課題	天候不順による食材の生育不良や価格の高騰といった社会情勢の変化などにより、地場産以外の食材に変更せざるを得ないことがあり、地場産の食材の確保が課題となっています。
改善点	安定的に地場産の食材を確保するためには、より多くの地場産物生産者の協力を得ることが必要となります。このための施策として生産者の皆様に学校給食について知ってもらうことを目的として、給食センターの見学会や試食会を行うとともに「地産地消の現状と取組み方針」について意見交換会を開催します。

（学校給食課）

（３）「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると感じている」児童生徒の割合



施策総括	日常からの信頼関係の構築に加え、学校生活に関するアンケート及び相談に乗ることができる人や場所の定期周知と実施を行い、大人側からも子ども達の変化について丁寧な見取りと声がけに努めました。
反省・課題	困りごとや不安の内容は生成 AI が身近なものとなってから、更に多岐に渡っています。また、配慮を要すると考えられる児童生徒は、家庭環境や社会状況等の複合的要因から年々増加しています。
改善点	子ども達が一人で困りごとや不安を抱えないよう、これまでの取組も継続しつつ、発達段階に応じた内容で「SOS の出し方教育」を実施します。

（学校教育課）

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	教育総務係、教育指導室、 学校庶務担当、学校教育担当

決算書ページ	203

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	事務局費			
	事業	0110015	事務局費		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
306,401,000	299,615,667	0	6,785,333	97.8%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
13,792,158		入学準備金貸付基金利子	248,558	地域自殺対策強化事業補助金	36,000
		入学準備金貸付基金繰入金	6,800,000	指定寄附	1,000,000
		入学準備貸付金	5,635,800		
		入学準備貸付金滞納繰越金	71,800		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1 事務局費総務

（1）教育指導員の配置

教育指導室へ指導員を配置し、指導体制の充実を図っています。

区分	人数	決算額
教育指導員	5人	14,763,533 円

（2）いじめ・不登校対策事業

学校教職員への研修や校長会・教頭会への指導助言を行いながら、児童生徒のいじめ不登校等への支援方法や早期発見、早期対応への研究、関係機関との意見交換を行いました。

（3）就学相談

就学相談調査員９名が学校や認定こども園等を訪問し、就学に関する相談を実施しました。就学相談委員会(委員18名、開催12回)において、知的障がいや心身障がい等の特性のある子どもの学びの場について検討し、判断を行いました。

対象者	人数	判断結果			判断と異なる就学者
		通常学級	特別支援学級	特別支援学校	
幼児	113	36	70	7	0
児童	141	16	122	3	0
生徒	11	4	7	0	0
小計	265	56	199	10	0

予算	款	10	教育費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	事務局費			
	事業	0110015	事務局費		施策	学校教育の充実

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

（４）各種大会等出場者補助金(交付先:各学校長)
各種大会等へ参加する際の費用負担軽減のため補助を行いました。(基本的に県大会以上)

区分	体育大会		合唱・吹奏楽ｺﾝｸｰﾙ等		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
小学校	7	118,200 円	10	688,800 円	17	807,000 円
中学校	60	2,702,800 円	16	812,000 円	76	3,514,800 円
合計	67	2,821,000 円	26	1,500,800 円	93	4,321,800 円

（５）私立高等学校運営費補助金　5,440,000円
対象校８校、補助対象生徒数　544人

2 学校システム管理事業
（１）教育用システム・サーバの借上げ
・センターサーバ（令和２年度、令和３年度　更新５年リース）　6,551,578円
教育委員会管理のセンターサーバを設け、学校との情報ネットワークの一元化、
セキュリティの確保を行っています。
・学校図書館システム（令和６年度更新・５年リース）　6,066,720円
学校図書館の蔵書管理システムを構築することにより貸出・返却を効率的に管理します。

（２）主な委託事業
・センターサーバ管理保守、学校ネットワーク用機器管理保守　8,087,200円
・ＩＣＴ支援員業務委託　31,900,000円
（３）GIGAスクール構想の推進
・GIGAスクール運営支援センター業務委託　3,342,900円
・GIGAスクール端末フィルタリングサービス使用料　2,556,136円
・授業目的公衆送信補償金　983,136円

3 学校安全対策事業

事業名等	金額	備考
学校安全対策用品の購入(熊よけ鈴)	148,500円	購入数100個
通学路安全マップの作成	638,000円	関係者に配布
学校安全連絡メール配信システム使用料	1,015,740円	
通学路標識工事・修理の実施	884,400円	地域要望への対応
GIS通学路マップデータ更新委託	330,000円	

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	事務局費			
	事業	0110015	事務局費		施策	学校教育の充実

その３

主要な施策（事務事業）の成果の概要

４　入学準備金貸付事業

未来を担う人材の育成を図るため、入学の準備に要する費用を保護者に対して無利子で貸し付ける「安曇野市入学準備金貸付制度」の運用を平成28年11月から行っています。

【Ｒ７年度利用実績】

公立高校	私立高校	国公立大学・短大・専修学校	私立大学・短大・専修学校	計
３件	１件	１件	10件	15件
300,000円	300,000円	400,000円	5,800,000円	6,800,000円

上記の評価と課題等

就学相談は、幼児期からの早期支援により、公立認定こども園等だけでなく、私立保育園や認可外保育園、児童発達支援施設等との連携も推進しています。就学判断数は昨年度から若干の増、年中児の参観・相談は高止まりの状況となっています。

学校システム管理事業では、ＩＣＴ支援員による各校への定期的なＩＣＴ活用支援を実施することで、ＩＣＴを活用した教育の更なる推進や、教職員の負担軽減につながりました。

学校安全対策事業では、通学路合同点検で確認した点検結果による対策内容は、交通管理者（警察）、道路管理者（国県、市）と連携し、対応していきます。

入学準備金貸付金事業については、制度の的確な周知・運営を行いました。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	教育指導室

決算書ページ	203

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	事務局費			
	事業	0110020	学校支援員配置事業		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
233,011,000	230,860,567	0	2,150,433	99.1%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
2,659,000		小中学校看護師配置事業補助金	2,659,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1 報酬・職員手当　220,994,412円
2 謝礼　5,827,595円
3 旅費　4,025,910円

（1）学校支援員の配置

学校からの支援員配置要望に基づき、県教委による教職員等の配置や学校実情を勘案し、適正な人材配置に努めました。

職　種	人　数	備　考	職　種	人　数	備　考
医療支援員	３人		学力向上指導員	５人	(中学校)
自立支援員	17人		特別支援教育支援員	42人	
合　計				67人	

（2）スクールカウンセラー及び障がい児等指導相談員、放課後学習室支援員等の派遣

配慮を要する児童生徒への支援や学校職員による指導の相談対応のため、市費でスクールカウンセラー及び障がい児等指導相談員（学校心理士・作業療法士・言語聴覚士）を派遣しました。また、学習意欲の刺激や理解促進のため、放課後の学習支援を実施しました。

職　種	人　数	備　考	職　種	人　数	備　考
スクールカウンセラー	８人	(巡回型)	障がい児等指導相談員	３人	(巡回型)
放課後学習室支援員	52人		合　計	63人	

上記の評価と課題等

学校支援員の配置、スクールカウンセラー等の派遣他により、教員と連携して個に応じた支援を行い、子どもが安心して学校生活を送る環境を整えています。不登校（傾向）の児童生徒に対しては、主に教員と自立支援員・スクールソーシャルワーカー・自立支援コーディネーターが学校内外の支援者と連携し、多様な学びの場の保障に努めています。配慮を要すると考えられる児童生徒は、家庭環境や社会状況等の複合的要因から年々増加しています。

・また、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」に基づき、地域の学校でも医療的ケアを要する子どもの受け入れ体制の整備、医療支援員（看護師）の配置を求められる機会は増える可能性があります。今後も学校支援員の配置要望は高まる可能性があるため、子どもの状況や学校の実情に配慮した適正人員の配置に努めます。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	教育指導室

決算書ページ	205

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	事務局費			
	事業	0110022	キャリアフェスティバル推進事業		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
5,384,000	4,327,183	0	1,056,817	80.4%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額

主要な施策（事務事業）の成果の概要

１　「安曇野市中学生キャリアフェスティバル」の運営

キャリア教育の一環として堀金中学校の学年行事で実施した会を全市開催とする形に発展させた事業。生徒が、地元安曇野市にある企業などを知り、そこで働く大人の姿や考えに触れることで、自らの生き方や働く意味を考える機会とすると共に、地域の大人とのつながりを通して郷土愛をもてるようにする目的で、安曇野市７中学校の１年生全員を対象として初開催しました。

・事業を実施するにあたり、中学生の実行委員会（各校２名ずつ計14名）を組織しました。当日の開会式・閉会式における司会進行は、実行委員会の中学生が主に担いました。
・また、当日は63の事業所（企業や団体、個人事業者）が出展者として参加いただき、仕事の内容紹介、自分がその仕事についたきっかけ（就職の動機）、やりがいや夢、苦労を生徒たちに伝えてもらい、交流しました。

節名称	決算額	備考
10　需用費	723,387円	消耗品、印刷製本
12　委託費	2,603,000円	会場設営・撤収業務、生徒学習用素材の作成等委託
13　借上料	1,000,796円	大型バス借上

上記の評価と課題等

令和６年度から市の事業として開催し、市内に拠点がある企業や団体、個人事業者の協力を得て、当日は63出展者が参加しました。生徒たちに向けて、仕事の紹介と自身の働く思いを伝えてもらうことができました。また、産学官の取り組みとして出展者間、出展者・教員間、あるいは生徒間での交流も図る場面も作ることに留意しました。会を通して、中学２年生で実施する職場体験の受入先として相談できる事業所との出会いも生まれています。今後は、事業に協力いただける出展者（多様な職種）を確保していくことや、生徒実行委員会との連携を更に深めていくことを大事にしていきたいです。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	学校教育担当

決算書ページ	205

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	事務局費			
	事業	0110027	外国語指導助手配置事業		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
60,194,000	59,934,677	0	259,323	99.6%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
50,000,000		ふるさと寄附基金繰入金	50,000,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　小中学校外国語指導助手派遣業務

市内小中学校17校に外国語指導助手（ＡＬＴ）を配置することにより、外国語に触れる機会、外国の異文化、生活に慣れ親しむ機会を提供し、文部科学省が示す学習指導要領に基づき、言語活動を通じて、コミュニケーションを図る資質・能力を育成し、国際感覚を養うことを目指して、外国語（英語）教育の推進を図っています。

ＡＬＴの配置		11人（児童生徒数に応じて）	56,362,284円

2　中学校英語課外授業、小学校オンライン国際交流事業

中学校では、２年生を対象に各校で英会話の課外授業を実施しています。小学校では、５年生を対象に海外講師とオンラインで交流する国際交流事業を実施することで、英語学習への意欲を高めることや異なる文化への理解を深める機会の提供を図っています。

オンライン国際交流事業	小学校10校　５学年対象	2,217,600円
英語課外授業の実施	中学校７校　２年生対象	1,332,980円

上記の評価と課題等

小学校では、ＡＬＴが担任教諭等と連携した授業を実施することで、児童が楽しみながら英語に触れ、親しむ体験を通して、英語で自分の意見を伝えたり、相手の話を理解する力を身につける学習の場を提供しています。

中学校では、ＡＬＴが英語の授業に参加することで、生徒の英語でコミュニケーションを図る能力の育成や国際感覚の基盤を培う機会の確保を図っています。

このほか、中学生２年生を対象とした英語課外授業や小学校５年生を対象としたオンライン国際交流事業を実施し、外国語（英語）教育の推進を図っています。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	教育指導室

決算書ページ	205

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	事務局費			
	事業	0110030	教育支援センター運営事業		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
26,053,000	25,435,648	0	617,352	97.6%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額

主要な施策（事務事業）の成果の概要

教育支援センターは豊科公民館内に設置しています。学校や関係機関と連携しながら、児童生徒や保護者等の支援を実施しています。

１　教育支援センターの運営状況

（１）開室日：原則小中学校の登校日

（２）人員体制：指導員５名（常勤２名、非常勤３名）
自立支援コーディネーター２名、教育施設連携促進コーディネーター２名配置
スクールソーシャルワーカー５名（市による委嘱４名、県による市派遣１名）

（３）教育支援センター利用の推移（単位：人）　※アウトリーチ支援は除く

利用者数	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
小学生	24	20	26	31	35
中学生	14	16	27	29	25
小　計	38	36	53	60	60

（４）出張教室：週１回、穂高会館・穂高総合体育館を活用して出張教室を実施
内容：運動、調理実習など

（５）不登校（傾向）児童生徒と保護者に向け実施した活動や民間施設との体験的活動
内容：スマートフォンの使い方（つきあい方）の学習会、高校説明会、
現役高校生との座談会、ドローン体験、交流会

上記の評価と課題等

教育支援センターは、年間で60人が通室や相談等で利用しました。くわえて、アウトリーチ支援として、18名に家庭訪問等で支援を実施しました。また、令和７年度は出張教室の実施や、民間施設と共同で実施できる体験的活動、市で主催の高校説明会の実施に取り組みました。

子どもの中には、教育支援センターまで通うことが難しい場合もあることから、アウトリーチ支援を継続して教育支援センターの機能充実を図りつつ、関係機関との連携を推進する必要があります。子どもの多様な学びの場の保障と支援ができるよう努めます。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	教育指導室

決算書ページ	213

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	小学校費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	教育振興費			
	事業	0110185	小学校通級指導教室事業		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
1,091,000	928,893	0	162,107	85.1%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額

主要な施策（事務事業）の成果の概要

１　言語障がい通級指導教室「ことばの教室」、LD等通級指導教室「まなびの教室」の運営

※LDとは、Learning Disabilitiesの略、学習障がいを意味します。

（１）言語障がい通級指導教室「ことばの教室」

設置校：穂高北小学校２教室

サテライト校：三郷小学校１教室

「ことばの教室」は、通常の学級に在籍する言語障がい等を有する児童に対し、各教科等の指導は主として通常の学級で行いつつ、個々の障がいの状態に応じた特別の教育課程による指導を県費加配担当教員２人が実施しています。

（２）LD等通級指導教室「まなびの教室」

設置校：穂高北小学校２教室、三郷小学校２教室、豊科北小学校１教室

サテライト校：堀金小学校１教室

「まなびの教室」は、通常の学級に在籍する発達障がいや学習障がい等を有する児童に対し、各教科等の指導は主として通常の学級で行いつつ、個々の障がいの状態に応じた特別の教育課程による指導を県費加配担当教員５人が実施しています。また、グループソーシャルスキルトレーニングとして小集団での指導を行いました。

２　令和７年度通級及び相談支援実績

	通級人数	グループＳＳＴ	教育相談
ことばの教室	38人		13人
まなびの教室	90人	3人	54人
小　計	128人	3人	67人
合　計			198人

上記の評価と課題等

通級指導教室が３校７教室となり、サテライト教室も開設していることから、支援件数と教育相談件数は増加しています。通級及び相談支援件数は延べ188人になり、通常学級での支援・家庭での関わり方についての助言や、通級指導教室での指導により児童の主訴改善を図ることができています。

令和８年度から、「まなびの教室」はサテライト教室１教室を増設予定です。言語や発達障がいだけでなく、複合的な要因からコミュニケーションの課題や学びづらさを抱える児童の相談が増えています。在籍校や家庭と連携した指導・支援に努め、子どもたちが通級指導教室で学んだことを、生活場面においても発揮できること（汎化）を目指します。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	教育指導室

決算書ページ	219

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	03	中学校費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	教育振興費			
	事業	0110250	中学校通級指導教室事業		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
394,000	357,833	0	36,167	90.8%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　LD等通級指導教室「まなびの教室」の運営
※LDとは、Learning Disabilitiesの略、学習障がいを意味します。

設置校：穂高東中学校２教室、三郷中学校１教室
サテライト校：穂高西中学校１教室、豊科北中学校１教室、堀金中学校１教室
「まなびの教室」は、通常の学級に在籍している発達障がい・学習障がい・情緒障がい等を有する生徒に対し、各教科等の指導は主として通常の学級で行いつつ、個々の障がいの状態に応じた特別の指導を通級指導教室にて実施しています。
県から担当教員３人が配置され、通級による個別指導や教育相談にあたりました。

2　令和７年度通級及び相談支援実績

	通級人数	教育相談
まなびの教室	46人	16人
合　計		62人

上記の評価と課題等

中学校では、通常学級の授業や部活動を大切にしている生徒もいるため、学校生活に配慮しながら通級による指導を実施しています。令和８年度から「まなびの教室」は３教室から４教室（穂高東中２、三郷中２）に増設予定です。サテライト教室も設置することで、市内中学校から広く教育相談を受けることができています。通級指導教室での学びは、在籍校（担任や学級）、家庭等と連携し、継続的に指導・支援することで、その子どもの日常生活におけるコミュニケーションをはじめとした力に繋がります。進路等を含め、本人の願いを軸にしながら、支援者間で連携を図るよう努めます。通級指導教室での学びを、本人の日常生活でも発揮できる状態（汎化）を目指して、指導・支援に努めます。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	学校庶務担当

決算書ページ	215

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	小学校費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	03	学校施設整備費			
	事業	0110190	小学校施設維持修繕事業		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
64,489,000	53,755,158	7,655,000	3,078,842	83.4%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額

主要な施策（事務事業）の成果の概要

市内小学校10校について、児童の安全・安心の学校施設環境を維持するための修繕を実施しました。

【繰越明許事業】　学校施設環境改善交付金の前倒し交付により令和８年度に繰越
明北小学校：特別支援教室の増加に伴い、空調設備を整備します。

1　施設修繕　22,607,337円（ガラス破損などの軽微なものは学校予算にて対応）

主な修繕	件数	決算額	実施校
照明修繕（蛍光灯からLED照明へ）	15件	1,368,444円	豊科北小学校外
プール関連設備修繕	４件	363,990円	穂高西小学校外
給排水設備修繕	７件	1,167,969円	豊科北小学校外
空調設備修繕	４件	403,480円	三郷小学校外
その他修繕	53件	19,303,454円	

2　遊具点検業務の実施　579,700円

3　業務委託　7,142,956円

主な業務委託	件数	決算額	内容等
草刈作業	10件	276,665円	三郷小学校外
伐採・剪定作業	11件	1,574,982円	穂高北小学校外
公立学校施設台帳作成	１件	499,950円	市内全小学校
小学校改修工事　設計	１件	2,502,500円	穂高北小学校外

4　工事請負費　20,731,343円

主な工事	件数	決算額	実施校
空調設備設置等工事	４件	5,619,900円	穂高南小学校外
トイレ等関連工事	３件	3,040,959円	豊科東小学校外
体育館床塗装工事	１件	5,115,000円	豊科南小学校
その他工事	58件	6,955,484円	

予算	款	10	教育費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	02	小学校費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	03	学校施設整備費			
	事業	0110190	小学校施設維持修繕事業		施策	学校教育の充実

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

5　学校施設の点検業務

項　目		頻　度
建築物定期調査	建築基準法12条に基づく、建築物及び建築設備の点検	３年に１度
防火設備点検	シャッターの動作及び動作制御盤やシャッターと連動している煙感知器の保守点検	毎年
消防用設備点検	消防法に規定される設備、機器（制御盤、感知器及び消火栓設備）等の保守点検	毎年
昇降機保守点検	常用エレベーターの保守点検	毎年
自家用電気工作物点検	自家用電気工作物の保安管理	毎年
プール設備点検	水泳プール循環機等の点検	毎年
高架水槽・受水槽清掃点検	学校の飲料水を清潔に保つための清掃・点検	毎年
遊具点検	小学校内の遊具の安全点検	毎年
空調機定期点検	フロン排出抑制法に基づく空調機定期点検	３年に１度

上記の評価と課題等

学校施設を常に健全な状態に保ち、安全安心で快適な教育環境を維持するためには、老朽化や機能の低下が生じる前に予防的な修繕を行う必要があります。従来の事後保全での整備と比較して施設を長く使用することができる「学校施設の長寿命化」を図るうえで「計画保全」の考え方が重要になります。

効率的、効果的な保全を行うためには、その判断材料となる施設の定期的な点検業務を確実に行っていくことが重要です。

本市の学校施設では点検業務を着実に実施し、活用していきます。また、施設の基礎情報や保守記録とあわせ、点検結果の情報を集積し、一元的に管理しています。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	学校庶務担当

決算書ページ	219

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	03	中学校費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	03	学校施設整備費			
	事業	0110285	中学校施設維持修繕事業		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
55,060,000	51,990,388	0	3,069,612	94.4%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額

主要な施策（事務事業）の成果の概要

市内中学校７校について、生徒の安全・安心の学校施設環境を維持するための修繕を実施しました。

1　施設修繕　　26,185,049円（ガラス破損などの軽微なものは学校予算にて対応）

主な修繕	件数	決算額	実施校
照明修繕（蛍光灯からLED照明へ）	６件	459,360円	堀金中学校外
プール関連設備修繕	４件	753,280円	穂高東中学校外
給排水設備修繕	８件	2,206,875円	豊科南中学校外
空調設備修繕	５件	1,262,030円	豊科南中学校外
その他修繕	55件	21,503,504円	

2　業務委託　　3,585,165円

主な業務委託	件数	決算額	内容等
草刈作業	１件	39,449円	三郷中学校外
伐採・剪定作業	10件	1,409,923円	穂高東中学校外
公立学校施設台帳作成	１件	299,200円	市内全中学校
明科中学校中庭地盤状況確認	１件	1,595,000円	

3　工事請負費　　15,505,820円

主な工事	件数	決算額	実施校
空調機改修工事	１件	1,221,000円	豊科北中学校
消防設備関連工事	１件	3,080,000円	明科中学校
体育館床塗装工事	１件	7,150,000円	豊科北中学校
その他工事	11件	4,054,820円	

予算	款	10	教育費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	03	中学校費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	03	学校施設整備費			
	事業	0110285	中学校施設維持修繕事業		施策	学校教育の充実

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

4　学校施設の点検業務

項　目		頻　度
建築物定期調査	建築基準法12条に基づく、建築物及び建築設備の点検	３年に１度
防火設備点検	シャッターの動作及び動作制御盤やシャッターと連動している煙感知器の保守点検	毎年
消防用設備点検	消防法に規定される設備、機器（制御盤、感知器及び消火栓設備）等の保守点検	毎年
昇降機保守点検	常用エレベーターの保守点検	毎年
自家用電気工作物点検	自家用電気工作物の保安管理	毎年
プール設備点検	水泳プール循環機等の点検	毎年
高架水槽・受水槽清掃点検	学校の飲料水を清潔に保つための清掃・点検	毎年
空調機定期点検	フロン排出抑制法に基づく空調機定期点検	３年に１度

上記の評価と課題等

学校施設を常に健全な状態に保ち、安全安心で快適な教育環境を維持するためには、老朽化や機能の低下が生じる前に予防的な修繕を行う必要があります。従来の事後保全での整備と比較して施設を長く使用することができる「学校施設の長寿命化」を図るうえで「計画保全」の考え方が重要になります。

効率的、効果的な保全を行うためには、その判断材料となる施設の定期的な点検業務を確実に行っていくことが重要です。

本市の学校施設では、点検業務を着実に実施し活用していきます。また、施設の基礎情報や保守記録とあわせ、点検結果の情報を集積し、一元的に管理しています。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	学校庶務担当

決算書ページ	219

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	03	中学校費		目標	学び合い　人と文化を育むまち
	目	03	学校施設整備費			
	事業	01900240	【明許】中学校照明ＬＥＤ化事業		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
31,647,000	23,804,000	0	7,843,000	75.2%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
23,716,000		学校施設環境改善交付金	7,716,000		
		学校施設整備事業（特例債・施設）	800,000		
		学校施設改修事業（補正予算債）	15,200,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

豊科南中学校、明科中学校の体育館において、照明器具のLEDへの更新を行い、学習環境の改善を図ることができました。

１　設計監理委託料　　880,000円

２　工事請負費　　22,924,000円

上記の評価と課題等

LED照明への更新が部分的に完了していなかった豊科南中学校、明科中学校の体育館の照明の更新を行いました。体育の授業等で安定した環境を提供できるようになりました。これにより、小中学校の全ての体育館・講堂等のLED照明への更新を完了しました。

令和８年度	
部	教育部
課	学校給食課
係等	学校給食担当

決算書ページ	207

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	04	給食センター費			
	事業	0110045	給食センター総務費		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
778,647,000	774,790,842	0	3,856,158	99.5%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
504,094,699		学校給食費（現年分）	434,228,879		
		学校給食費（滞納繰越分）	365,820		
		物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金（推奨事業メニュー分）	69,500,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　市内学校給食センターの運営体制

学校給食センターの運営に係る適正な人員配置により円滑な給食運営が行えました。

※令和７年４月現在

	正規職員等	会計年度任用職員	県栄養士	合計
北部学校給食センター	1人	23人	2人	26人
堀金学校給食センター	1人	13人	1人	15人
中部学校給食センター	3人	19人	2人	24人
南部学校給食センター	1人	23人	2人	26人
合　計	6人	78人	7人	91人

2　地産地消の推進

（１）地元産食材の使用等

月１回「安曇野の日」を設定し、わさびコロッケやりんごナポリタンなどの地元産食材を使用した献立のほか、かぼちゃ団子などの郷土食や行事食を取入れた献立を提供できました。また、安曇野市に縁のある「新宿中村屋」のご協力のもと、中村屋カリーを年２回学校給食で提供しました。

（２）生産者等との交流

生産者団体等（農業者）やＪＡと地域食材について情報交換を行い、交流を深めることで学校給食へ季節を感じることができる地元産農作物の活用が図れました。

3　安全な食材への取り組み

児童・生徒に安心・安全でおいしい給食を提供するため、各給食センターで生産地の確認や成分表による含有物質の確認を行う等、給食として提供する食材の安全性を確認しました。

4　学校給食費の額の改定

物価高騰等による影響に伴い、令和６年度に続き令和７年４月から学校給食費の額を改定しました。

なお、引き続き保護者負担額は据え置き、増額分は公費負担としています。

給食費単価（１食）	小学校	中学校
改定後（R７年度）	330円（280円）	390円（330円）
改定前（R６年度）	320円（280円）	375円（330円）
増減	10円（0円）	15円（0円）

（　）内は保護者負担額

5　学校給食費の徴収

給食費の口座振替から徴収、督促状の発送等の業務を一元管理できる収納管理システムの運用により、学校給食費の効率的な徴収が出来ました。

上記の評価と課題等

職員の健康管理、保菌検査、衛生管理指導、異物混入等防止の徹底を図り、安全・安心でおいしい給食の提供に努めました。また、季節を感じる地元産農産物等をできる限り使用した給食を提供するなど、学校給食における地産地消や食育を推進することが出来ました。

令和７年度も給食の質および量の確保を図るため、食材費高騰分の給食費を増額改定しましたが、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用することで保護者負担を軽減することが出来ました。

令和８年度	
部	教育部
課	学校給食課
係等	学校給食担当

決算書ページ	209

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	04	給食センター費			
	事業	0110050	北部給食センター費		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
74,495,000	70,912,890	0	3,582,110	95.2%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
306,776		食用廃油売渡し収入	61,776		
		その他雑入（ゼロカーボン推進課）	245,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　施設管理、衛生管理の取組み

（1）施設管理

北部学校給食センターは、平成24年２月に稼働した施設で、令和８年１月で14年を経過しており、近年では、一部の設備や機器類の老朽化等による不具合も発生していますが、機械設備や厨房機器の保守点検を専門業者に 委託することで、機器や設備の異常を早期に発見し、初期対応を適切に行うことで大きなトラブルや事故を未然に防ぐことができました。

（2）衛生管理

給食センターの調理員・職員に家族の健康状態も含めた毎日の健康観察記録を義務付けることで感染症等の予防対策を講じるとともに給食センターに入場する全ての来所者に７日前までの健康状態の把握を求めるなど、感染症対策や衛生対策を徹底しました。

2　食育推進と地産地消の取組み

（1）食育の推進

毎日の献立表に「一口メモ」を掲載し、給食に関する情報を各家庭に発信するとともに各クラスに給食だよりを随時発行することで、給食の特色や情報を提供することができました。また、月に１回、「安曇野の日」を設定して地場産物を使った行事食や季節料理を提供し、インスタグラムに投稿することで給食や食育に関する情報を配信できました。

（2）地産地消の推進

米飯は安曇野産米を使用し、農産物は可能な限り安曇野産を使用することで安全・安心な食材で給食提供ができました。また、無農薬で環境に優しい有機米等の提供を年４回実施しました。

（3）給食センター視察・試食・体験学習の受け入れ

小学校保護者の見学・試食会に41人の皆様を受入れ、給食に対する理解を深めていただきました。
また、職場体験学習で中学生２名を受け入れました。

3　アレルギー対応

保護者、学校職員、給食センター職員が学校説明会や事前協議会を行い、アレルギー対応食提供にそれぞれの立場で共通認識を持ち組織的に対応することで、食物アレルギーを有する児童・生徒へのアレルギー対応食（対象食材の完全除去食、あるいは代替食）の提供を行うことができました。
また、アレルギー調理室と一般調理室を完全に分離して調理するとともにアレルギー食を専門に取扱う調理員を専任配置することで調理過程でのアレルギー食材混入防止対策を徹底しました。

上記の評価と課題等

職員の健康管理はもとより、保菌検査、衛生管理指導、異物混入防止等の徹底を図り、引き続き安全・安心でおいしい給食の提供に心がけていきます。
季節を感じる地元産農産物等をできる限り使用した給食を提供するなど、学校給食における地産地消や食育の推進に取組みます。

令和８年度	
部	教育部
課	学校給食課
係等	学校給食担当

決算書ページ	209

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	04	給食センター費			
	事業	0110055	堀金給食センター費		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
27,015,000	24,701,666	0	2,313,334	91.4%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
21,450		食用廃油売渡し収入	21,450		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

１ 施設管理、衛生管理の取り組み

（１）施設管理

堀金学校給食センターは建設から18年以上が経過し、施設、設備の老朽化が進んだことから、令和５年度から令和６年度にかけて厨房機器等更新工事を実施しました。現在は、保守点検を行いながら順調に稼働しています。

（２）衛生管理

食中毒対策と感染症対策として、職員の日々の健康確認はもとより、月に２回の保菌検査を実施しており、来所者にも７日前までの健康チェックを求めています。

２ 食育推進と地産地消の取組み

（１）食育の推進

毎日の献立表に「一口メモ」を掲載し、給食に関する情報を各家庭に発信すると共に、各クラスにお便り「Happy Kitchen Time」を随時発行することで、給食の特色や情報を提供することができました。

また、月に１度の「安曇野の日」に、地場産物を使った行事食や季節料理を提供し、インスタグラムに投稿することで学校給食のPRを行いました。

（２）地産地消の推進

米飯は安曇野産米を使用し、農産物は可能な限り安曇野産を使用することで安全・安心な食材で給食提供ができました。また、無農薬で環境に優しい有機米等の提供を年４回実施しました。

（３）給食センター視察・試食・体験学習の受け入れ

給食に対する理解を深めていただくことを目的として、小・中学校の保護者の試食会を行いました。

３ アレルギー対応

保護者、学校職員、給食センター職員で学校説明会や事前協議会を行い、アレルギー対応食提供にそれぞれの立場で共通認識を持つことで、食物アレルギーを有する児童・生徒へのアレルギー対応食（対象食材の完全除去食、あるいは代替食）の提供を行うことができました。また、アレルギー室と一般調理室を完全に分離して調理するとともにアレルギー食を専門に取扱う調理員を専任配置することで調理過程でのアレルギー食材混入防止対策が徹底しました。

上記の評価と課題等

職員の健康管理はもとより、保菌検査、衛生管理指導、異物混入防止等の徹底を図り、引き続き安全・安心でおいしい給食の提供に心がけていきます。

季節を感じる地元産農産物等をできる限り使用した給食を提供するなど、学校給食における地産地消や食育の推進に取組みます。

令和８年度	
部	教育部
課	学校給食課
係等	学校給食担当

決算書ページ	211

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	04	給食センター費			
	事業	0110060	中部給食センター費		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
79,679,000	76,576,968	0	3,102,032	96.1%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
109,655		太陽光発電売電収入	38,012		
		食用廃油売渡し収入	71,643		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　施設管理、衛生管理の取組み

（1）施設管理

中部学校給食センターは、平成19年８月に稼働した施設で、令和７年７月で18年を経過しており、近年では、一部の設備や機器類の老朽化等による不具合も発生していますが、機械設備や厨房機器の保守点検を専門業者に委託することで、機器や設備の異常を早期に発見し、初期対応を適切に行うことで大きなトラブルや事故を未然に防ぐことができました。

（2）衛生管理

給食センターの調理員・職員に家族の健康状態も含めた毎日の健康観察記録を義務付けることで感染症等の予防対策を講じるとともに給食センターに入場する全ての来所者に７日前までの健康状態の把握を求めるなど、感染症対策や衛生対策を徹底しました。

2　食育推進と地産地消の取組み

（1）食育の推進

毎日の献立表に「一口メモ」を掲載し、給食に関する情報を各家庭に発信するとともに各クラスに給食だよりを随時発行することで、給食の特色や情報を提供することができました。また、月に１回、「安曇野の日」を設定して地場産物を使った行事食や季節料理を提供し、インスタグラムに投稿することで給食や食育に関する情報を配信できました。

（2）地産地消の推進

米飯は安曇野産米を使用し、農産物は可能な限り安曇野産を使用することで安全・安心な食材で給食提供ができました。また、無農薬で環境に優しい有機米等の提供を年４回実施しました。

（3）給食センター視察・試食・体験学習の受け入れ

職場体験学習で中学生１名を受け入れました。

3　アレルギー対応

保護者、学校職員、給食センター職員が学校説明会や事前協議会を行い、アレルギー対応食提供にそれぞれの立場で共通認識を持ち組織的に対応することで、食物アレルギーを有する児童・生徒へのアレルギー対応食（対象食材の完全除去食、あるいは代替食）の提供を行うことができました。また、アレルギー調理室と一般調理室を完全に分離して調理するとともにアレルギー食を専門に取扱う調理員を専任配置することで調理過程でのアレルギー食材混入防止対策を徹底しました。

上記の評価と課題等

職員の健康管理はもとより、保菌検査、衛生管理指導、異物混入防止等の徹底を図り、引き続き安全・安心でおいしい給食の提供に心がけていきます。

季節を感じる地元産農産物等をできる限り使用した給食を提供するなど、学校給食における地産地消や食育の推進に取組みます。

令和８年度	
部	教育部
課	学校給食課
係等	学校給食担当

決算書ページ	211

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	04	給食センター費			
	事業	0110065	南部給食センター費		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
66,064,000	64,117,491	0	1,946,509	97.1%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
123,643		太陽光発電売電収入	64,012		
		食用廃油売渡し収入	59,631		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　施設管理、衛生管理の取組み

（1）施設管理

南部学校給食センターは、平成19年８月に稼働した施設で、令和７年７月で18年を経過しており、近年では、一部の設備や機器類の老朽化等による不具合も発生していますが、機械設備や厨房機器の保守点検を専門業者に委託することで、機器や設備の異常を早期に発見し、初期対応を適切に行うことで大きなトラブルや事故を未然に防ぐことができました。

（2）衛生管理

給食センターの調理員・職員に家族の健康状態も含めた毎日の健康観察記録を義務付けることで感染症等の予防対策を講じるとともに給食センターに入場する全ての来所者に７日前までの健康状態の把握を求めるなど、感染症対策や衛生対策を徹底しました。

2　食育推進と地産地消の取組み

（1）食育の推進

毎日の献立表に「一口メモ」を掲載し、給食に関する情報を各家庭に発信するとともに各クラスに給食だよりを随時発行することで、給食の特色や情報を提供することができました。また、月に１回、「安曇野の日」を設定して地場産物を使った行事食や季節料理を提供し、インスタグラムに投稿することで給食や食育に関する情報を配信できました。

（2）地産地消の推進

米飯は安曇野産米を使用し、農産物は可能な限り安曇野産を使用することで安全・安心な食材で給食提供ができました。また、無農薬で環境に優しい有機米等の提供を年４回実施しました。

（3）給食センター視察・試食・体験学習の受け入れ

小学校保護者の見学・試食会に18人の皆様を受入れ、給食に対する理解を深めていただきました。また、職場体験学習で中学生２名を受け入れました。

3　アレルギー対応

保護者、学校職員、給食センター職員が学校説明会や事前協議会を行い、アレルギー対応食提供にそれぞれの立場で共通認識を持ち組織的に対応することで、食物アレルギーを有する児童・生徒へのアレルギー対応食（対象食材の完全除去食、あるいは代替食）の提供を行うことができました。また、アレルギー調理室と一般調理室を完全に分離して調理するとともにアレルギー食を専門に取扱う調理員を専任配置することで調理過程でのアレルギー食材混入防止対策を徹底しました。

上記の評価と課題等

職員の健康管理はもとより、保菌検査、衛生管理指導、異物混入防止等の徹底を図り、引き続き安全・安心でおいしい給食の提供に心がけていきます。

季節を感じる地元産農産物等をできる限り使用した給食を提供するなど、学校給食における地産地消や食育の推進に取組みます。

令和８年度	
部	教育部
課	子ども家庭支援課
係等	子ども家庭相談担当

決算書ページ	107

予算				総合計画		
	款	03	民生費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	社会福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	01	社会福祉総務費			
	事業	0103060	児童発達支援事業		施策	子どもを育む環境の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
19,746,000	18,403,641	0	1,342,359	93.2%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
2,668,000		児童虐待防止対策等総合支援事業国庫補助金	2,668,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

子ども発達支援相談室では、０歳～18歳までの発達等に心配のある子ども及び保護者に対し、子どもの最善の利益を考慮しながら、健やかな発達を支援しています。関係機関との連携により、育ちの躓きを早期発見し相談や検査などを行い、必要に応じて療育支援を行うとともに、切れ目のない支援を目指します。さらに、18歳以降の次のライフステージに繋げ、安心して生活できるよう、主に専門職の職員が相談事業、療育支援事業、地域のネットワークの構築を行っています。

１　主な事務費

（１）相談事業等　　15,587,993円　　会計年度任用職員報酬、手当・費用弁償費

（２）療育支援事業　　1,706,504円　　遊びの教室・学習会等報償費

２　相談事業

保育園等への巡回相談は、園と連携や継続支援ができるように実施方法を見直したため、入園児の相談は減少しました。小学生、中学生の相談件数は増加傾向にあり、個々に応じた支援を検討する関係者会議が増えています。相談内容は発達だけでなく、育児の悩みや家庭環境など複合した課題を多く抱えるいる家庭が多くなっています。就学以降は不登校傾向や集団不適応などの相談もあり、関係機関との連携を行い継続した支援の実施に努めました。

（１）相談実人数

令和5年度		令和6年度		令和7年度	
実人数	（内）新規	実人数	（内）新規	実人数	（内）新規
584人	329人（56.3%）	650人	271人（41.7%）	578人	237人（41.0%）

（２）年代別相談延べ件数

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
未就園児	118	78	48
就園児	582	589	556
小学生	678	839	864
中学生	225	255	283
高校生	123	120	93
その他	7	24	33
計	1,733	1,905	1,877

（３）相談内容別延べ件数

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
発　達	1,557	1,716	1,689
身　体	12	4	9
知　的	40	27	63
精　神	16	9	6
重度心身障害	0	0	0
その他	108	149	110
計	1,733	1,905	1,877

予算	款	03	民生費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	社会福祉費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	01	社会福祉総務費			
	事業	0103060	児童発達支援事業		施策	子どもを育む環境の充実

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

（４）方法別相談延べ件数

	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家庭訪問	25	1.4%	42	2.2%	4	0.2%
関係機関訪問	248	14.3%	363	19.1%	336	17.9%
来所相談	753	43.5%	709	37.2%	717	38.2%
電話相談	123	7.1%	101	5.3%	147	7.8%
支援会議	125	7.2%	199	10.4%	230	12.3%
発達検査（含報告）	454	26.2%	467	24.5%	424	22.6%
その他	5	0.3%	24	1.3%	19	1.0%
計	1,733		1,905		1,877	

（５）発達検査件数

	対象	令和5年度	令和6年度	令和7年度
WISC	５歳以上	196件	166件	144件
新版K式	主に５歳未満	63件	69件	69件

３　療育支援事業

未満児から就園する子どもの増加や保護者自身の都合により継続参加ができないなどがあり教室参加者が減少しました。教室は子どもの発達やニーズに合わせ柔軟に運営を行いました。学習会は、全体での子育て講演会のほかに、職員が各園に出向き、子育て講座を開催しました。

事業名	内容	対象	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
			回数	延べ人数	回数	延べ人数	回数	延べ人数
遊びの教室	発達等での小集団体験	１歳児	36	277人	33	243人	20	96人
		２歳児	36	308人	30	258人	40	266人
運動発達相談日	運動発達面の個別相談	０～２歳	23	126人	32	127人	34	78人
ことばの相談日	言語面での個別相談	２歳～	21	36人	19	29人	14	21人
発達相談日（令和4年度より）	発達全般での個別相談	０～３歳	45	109人	57	147人	48	105人
親子で遊ぼう教室（令和5年度より）	親子の遊び体験・講話・相談	7～8ヵ月児	8	108組	12	170組	12	157組
保護者向け学習会	子育て・発達についての講話	主に就学前の保護者等	19	410人	20	1,365人	13	453人
ペアレントトレーニング	個別・小集団での子育ての学び	年中～小6の保護者	37	53人	30	54人	16	33人

上記の評価と課題等

事業を通じて、子どもや保護者に相談支援が継続実施をするとともに、相談ニーズに合わせ関係機関との連携に努めました。保育園等への巡回相談について、実施方法を見直した経過があり、全体の相談の件数は昨年に比べ減少はしました。しかし保護者や関係機関から様々な発達に関する相談ニーズがあります。

対象者からの相談には個々の状況に応じて支援を実施することで、二次的な問題の予防に繋がるため、事業の実施や検討を継続的に行う必要があります。切れ目のない支援を目指し、関係機関等との連携に努めていきます。

令和８年度	
部	教育部
課	子ども家庭支援課
係等	子ども家庭相談担当

決算書ページ	205

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	いきいきと健康に暮らせるまち
	目	02	事務局費			
	事業	0110031	教育相談事業		施策	子どもを育む環境の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
5,836,000	5,074,872	0	761,128	87.0%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額

主要な施策（事務事業）の成果の概要

１　教育相談事業

教育相談室に教育相談員を配置しています。主に学校生活に関連する相談を受け、必要な助言等を行いました。

（１）相談対象者の年齢別相談件数（延べ件数）

年度	0～６歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19歳以上	不明・その他	合計
R５	44	40	21	3	72	3	183
R６	72	14	20	3	25	0	134
R７	35	18	12	6	8	0	79

（２）全相談延べ件数の内、WISC-Ⅳ検査に係る件数（延べ件数）

年度	件数
R５	54
R６	77
R７	36

（２）主訴別相談件数（延べ件数）

年度	性格行動	不登校	進路	育児・しつけ	いじめ	障がい	学校・園生活	その他	合計
R５	140	40	3	0	1	20	79	8	291
R６	109	18	2	6	0	24	85	0	244
R７	44	21	4	3	2	14	45	4	137

上記の評価と課題等

教育相談員が面談や電話により、不登校や人間関係など学校生活に関する相談を中心に相談業務を実施しました。必要に応じて、学校や中間教室等の関係機関とも連携し支援を行いました。

教育相談室にて受け付けた相談件数は、WISC発達検査がWISC-ⅣからWISC-Ⅴへ移行したことに加え、こども園において新版Ｋ式発達検査へ移行していることも一因となり対応件数は減少傾向にあります。

現状を踏まえ、効果的な相談体制及び学校や関係機関等との連携方法について検討が必要と考えられます。

◆基本方針３【家庭・地域との連携】
学校と家庭、地域等との連携による豊かな学びと心の育成の実現

１　施策の方向性

子どもの知徳体の育成や郷土愛の醸成は、学校とともに、家庭や地域もそれぞれの役割を担い、相互に連携することによって、充実したものになります。

少子化の加速に加えて、学校の教職員の働き方改革を進めることが求められるなど、子どもや学校を取り巻く環境は変化の渦中にあります。こうした中で、各主体が担うべき役割や連携の在り方を丁寧に見直していくことで、本市の子どもの育成の在り方や教育環境を持続可能なものに転換していきます。

また市民一人ひとりが子どもの権利を理解し、すべての子どもの権利が守られる地域を目指します。

２　数値目標

指標	令和５年度	令和７年度
「小中学校と地域･家庭の連携が図れている」と思う市民の割合	28.8%	28.0%
放課後子ども教室登録率	28.3%	25.5%

（出典:市民意識調査 および子ども家庭支援課作成資料）

3　令和７年度事業の成果

（１）「小中学校と地域･家庭の連携が図れている」と思う市民の割合

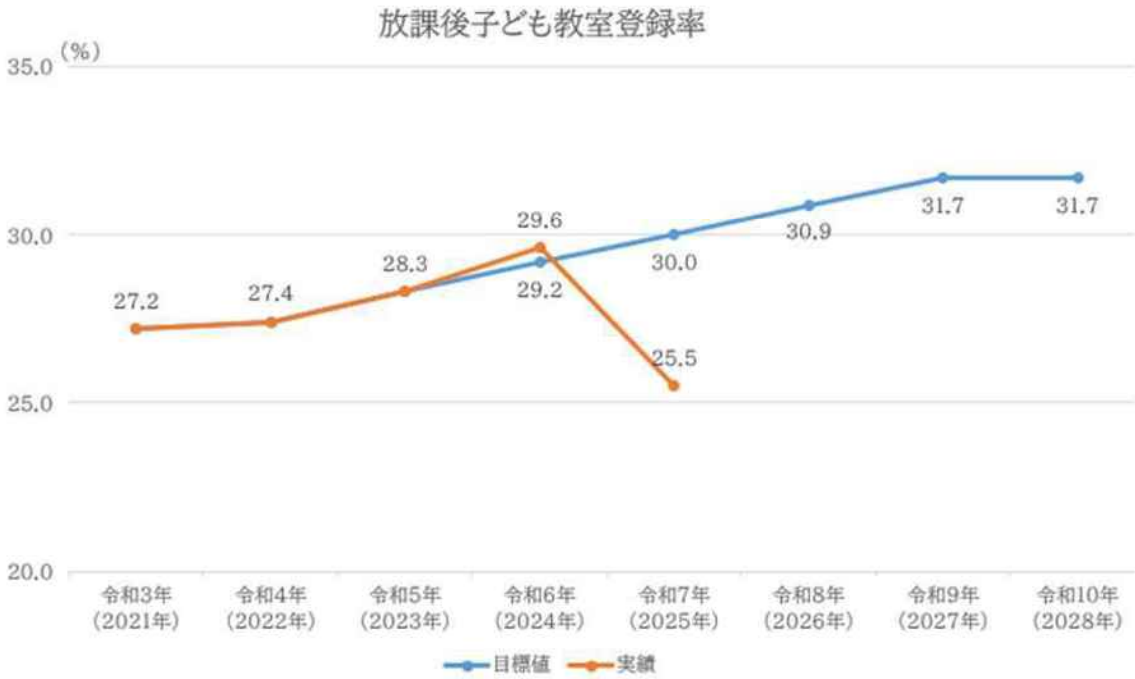
施策総括	コミュニティスクール事業では「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現を目指しており、学校と地域が育てたい子ども像や目指す教育ビジョンの共有に努めました。
反省・課題	市民や地域への周知が十分でないという課題を踏まえ、情報発信の強化と理解促進に取り組む必要があります。
改善点	反省点を踏まえ、情報発信を強化し、周知に努めます。

（学校教育課）

施策総括	「学校を核とした地域づくり」を目指し、幅広い地域住民の参画を得て、登下校時の見守り・地元の歴史の説明などの学校運営支援、落葉の清掃などの環境整備・美化活動といった様々な取り組みを実施しました。
反省・課題	全市的に生涯学習資源の活用頻度や、区へ加入する世帯数が減少している傾向にあります。このことは「学校と家庭、地域等との連携」を目指す上でも大きな課題になっています。
改善点	コミュニティスクール事業を浸透させるためには、実績を着実に積み重ねていくことが必要であると考えています。このため、学校運営協議会にて出された学校が解決を望む具体的な課題を、地域学校協働本部会議で適切に提示・共有し、熟議を通じて解決を図っていきます。

（生涯学習課）

（２）放課後子ども教室登録率



施策総括	放課後子ども教室（わいわいらんど）は、R７で市内小学生4,518 人のうち 1,153 人が利用しました。目標値を超えることはできませんでしたが、総合計画作成時（R3、24.0%）に比較すれば、依然として高い割合で利用されています。
反省・課題	本市では、放課後子ども教室を市内小学校の全て（10 校）で実施しています。県内においてもこれだけ活発に行っている自治体も珍しいとの声もあります。一方でコーディネーターやサポーターといった協力者の確保が難しいことが課題となっています。
改善点	子どもたちの安全確保・交流のため、引き続き協力者の募集に努めていきます。

（子ども家庭支援課）

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	学校教育担当

決算書ページ	205

予算	款	10	教育費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	01	教育総務費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	事務局費			
	事業	0110025	コミュニティスクール事業		施策	家庭・地域との連携の推進

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
5,313,000	3,246,902	0	2,066,098	61.1%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
3,000,000		ふるさと寄附基金繰入金	3,000,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

地域住民、保護者、地域コーディネーター等が、学校運営に参画し、意見を反映させ、学校運営の強化を図ります。

委員総数	128人	会議回数　49回	798,000円

2　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）

地域や学校の実情に応じた地域学校協働活動の企画・立案や学校と地域の連絡・調整等を行う役割を担います。

・連絡会議（事業確認・情報交換）　２回開催

地域コーディネーター総数	34名	313,063円

3　学校運営協議会活動支援交付金

学校運営協議会の運営事業や地域と学校が連携・協働して実施する教育活動に必要な費用を支援します。

申請学校数　17校	1,352,697円

上記の評価と課題等

コミュニティスクール事業が目指す「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向け、学校と地域が共有する育てたい子ども像や目指す教育ビジョンの明確化と共有化を進めていきます。

これらの取組について市民や地域への周知が十分でないという課題を踏まえ、情報発信の強化と理解促進に取り組むことを重視していきます。

令和８年度	
部	教育部
課	学校教育課
係等	学校庶務担当、学校教育担当

決算書ページ	217

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	03	中学校費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	教育振興費			
	事業	0110245	中学校教育振興費		施策	学校教育の充実

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
91,009,000	83,938,221	0	7,070,779	92.2%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
36,939,310		特別支援教育就学奨励費補助金	2,081,000	地域スポーツクラブ活動体制整備事業	1,751,000
		被災児童生徒就学等支援事業補助金	151,910	地域文化芸術クラブ活動体制整備事業	281,400
		中学校部活動指導員任用事業補助金	1,838,000	指定寄付金	714,000
		理科教育設備整備費補助金	1,122,000	ふるさと寄附基金繰入金	29,000,000

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　中学校就学援助事業

（1）要保護・準要保護児童生徒就学援助費　　35,861,247円

経済的理由によって就学が困難と認められる生徒に対して就学援助費を支給しました。

対象経費:学用品費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費、学校給食費等

（支給実績）

要保護生徒		準要保護生徒		合　　計	
0人	0円	347人	35,861,247円	347人	35,861,247円

※要保護生徒の国庫補助対象経費：修学旅行費（国庫補助率：対象経費の1/2）

※要保護生徒は修学旅行費のみが対象

※準要保護のうち被災生徒　1人、支給額　151,910円（県補助率10/10）

（2）特別支援教育就学援助費　　対象生徒数:77人　支給額:4,918,406円

特別支援学級に就学する生徒の保護者に対して、就学援助費を支給しました。

対象経費:学用品費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費、学校給食費等

※国庫補助率：対象経費の1/2

（新入学児童生徒学用品費に市独自加算があり、独自加算分は補助対象外）

- 要保護とは生活保護受給者(年度内廃止者含む)
- 準要保護とは所得要件(世帯収入)
- 特別支援教育就学奨励費とは特別支援学級在籍かつ所得要件(世帯収入)

2　中学校教科用指導書等購入事業

・令和７年度実績なし

予算	款	10	教育費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	03	中学校費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	02	教育振興費			
	事業	0110245	中学校教育振興費		施策	学校教育の充実

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

３ 市内７中学校

学校で必要な教材用消耗品、教材備品、児童用図書を購入して学習環境の整備を進めました。

節名称	決算額	主な内容
10　需要費	15,103,837 円	教育事業を進めるために必要な消耗品
17　備品購入費（教材）	5,880,429 円	吹奏楽等楽器、理科振興備品、ミシン、体育用マット、跳び箱、冷蔵庫外
17　備品購入費（図書）	6,088,848 円	図書館配備図書　達成率110.14%
合計	27,073,114 円	

※達成率：国が目標と定めた蔵書数（学校図書館図書標準）に対しての達成率

４　地域部活動推進事業

・中学校教諭の部活動負担の軽減、部活動の地域展開の進展を目的として部活動指導員を雇用しました。

・小学校課外クラブ活動と中学校部活動について、技術的指導者として学校外部の指導者を派遣します。また、朝の自主練習を実施した際に地域の見守りとして、巡回員を派遣します。

・部活動の地域展開の取り組みにより誕生した「地域クラブ」への支援のため、地域クラブの指導者謝礼を負担しました。

＜令和７年度 実績＞

部活動指導員	12名	2,834,400円
部活動外部指導者総数	49名	1,831,750円
朝の自主練習巡回員総数	29名	212,800円
地域クラブ指導者	26名	4,487,400円

上記の評価と課題等

生徒が安心して教育を受け、学校生活を送れるよう、経済的支援や、学習面・生活面における支援を必要とする家庭について、学校長等と連携しながら対応していきます。

学校別の教育振興費消耗品及び備品購入費は、基本額・人数割・クラス割により予算額を算出し配当しています。また、図書購入費は達成率を基に予算額を算出して配当しています。

配当された予算内で必要な教材や備品等を購入していますが、楽器など高額な備品で老朽化が著しいものについては、一度に整備することが困難であるため、学校と協議・調整を行いながら計画的に購入しています。

地域部活動推進事業では、地域クラブの指導者謝礼の負担を中心として支援を続けていきます。

令和８年度	
部	教育部
課	子ども家庭支援課
係等	児童青少年係

決算書ページ	235

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	04	青少年健全育成費			
	事業	0110375	放課後・家庭教育推進費		施策	家庭・地域との連携の推進

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
7,568,000	7,041,432	0	526,568	93.0%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
3,030,000		放課後こどもプラン補助金	3,030,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　放課後子ども教室「わいわいランド」

市内小学校に通う児童を対象に、異年齢間での自由遊びや体験活動のほか、地域の方々との世代間交流の機会を提供しました。活動日は毎週水曜日、コーディネーターやサポーターは地域の皆さまの有償ボランティアです。

学校名（小学校）	登録児童数（人、当初）	開催日数（日）	参加延べ児童数（人）	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ（人）	サポーター（人）
豊科南	115	23	2,135	3	15
豊科北	126	25	2,488	3	12
豊科東	34	26	753	2	4
穂高南	180	22	3,541	2	22
穂高北	184	19	3,323	3	21
穂高西	151	21	3,046	2	26
三郷	137	26	2,075	2	30
堀金	113	25	2,291	3	16
明南	71	25	1,475	2	15
明北	42	29	1,072	2	12
合計	1,153	241	22,199	24	173

※コーディネーター・・・放課後子ども教室の調整役

※サポーター・・・子ども10人位に対して１人を目安に配置し、活動を見守ります。

上記の評価と課題等

社会教育指導員及びコーディネーター、サポーターの見守りにより、大きな事故なく参加児童に有意義な時間を提供することができました。安曇野市では全小学校での実施であり、多くの児童が参加する人気の事業となっています。子どもたちの安全確保、交流のため引き続き協力者の募集に努めます。

◆基本方針４【生涯学習】
生涯を通じ学ぶ喜びを実感できる地域の実現

１　施策の方向性

本市には、豊かな自然環境に育まれた誇るべき歴史、文化、風土が息づいています。これらの要素が織りなす安曇野のフィールド全体を「学びの場」として活用し、生涯にわたって自分らしく学習活動に参加できる地域社会の構築を目指します。

また、「地域の知の拠点」としての役割を担う図書館については、交流学習センターとの複合施設としての特性を最大限に活かし、質の高い情報を提供する「学習センター」「情報センター」「文化センター」としての機能を強化します。これにより、多様化する「学び」のニーズに応え、気軽に利用できる身近な図書館を目指します。また、市民が本と触れる機会を増やし、市民同士が本を通じて出会う機会を充実させることで、地域の絆を深めていきます。

以上の方向性のもと、多様化する学びの要望に応え、情報や人と人との出会いを促進する環境を整え、地域の特性を活かした学びの場を提供し、すべての市民が自らの成長を実感できるよう努めます。これにより、地域全体が学びの場として活性化し、未来を担う人材の育成につながることを期待しています。

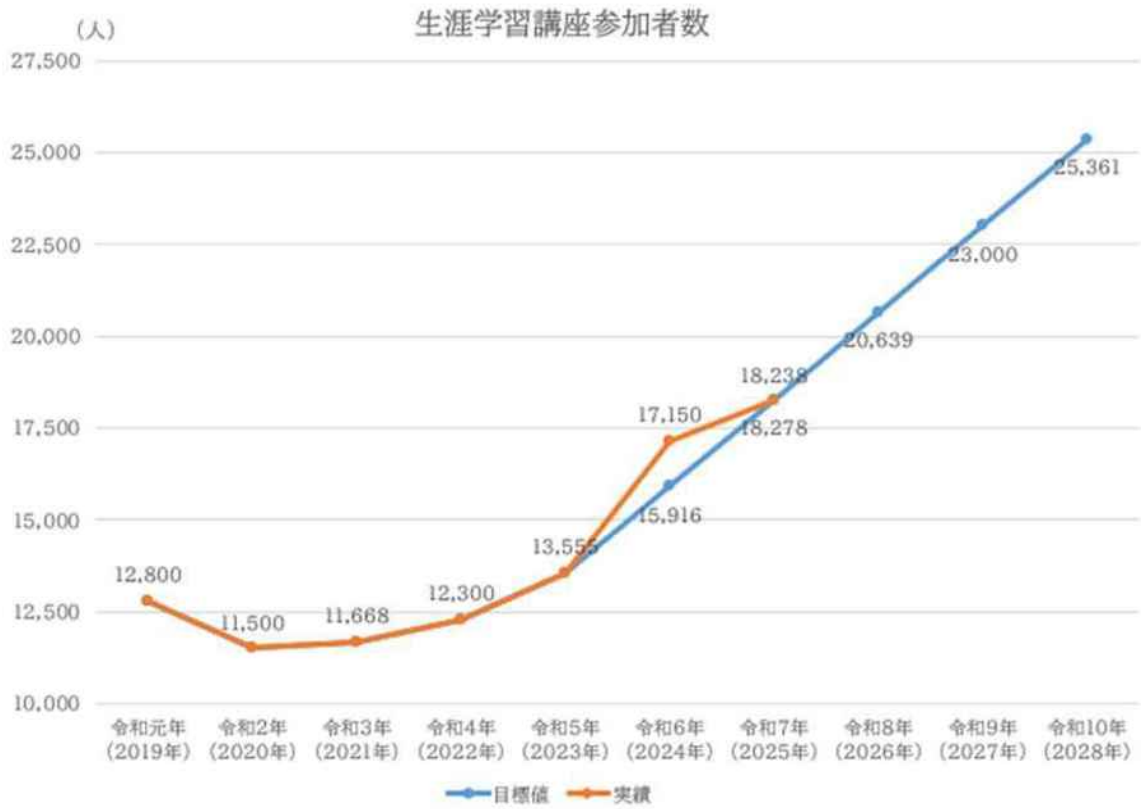
２　数値目標

指標	令和５年度	令和７年度
生涯学習講座参加者数	13,555 人	18,238 人
地域文化祭出演団体数	167 団体	208 団体
図書館の市民１人当たりの貸出冊数	8.0 冊	7.1 冊

（出典：生涯学習課および文化課作成資料）

3　令和７年度事業の成果

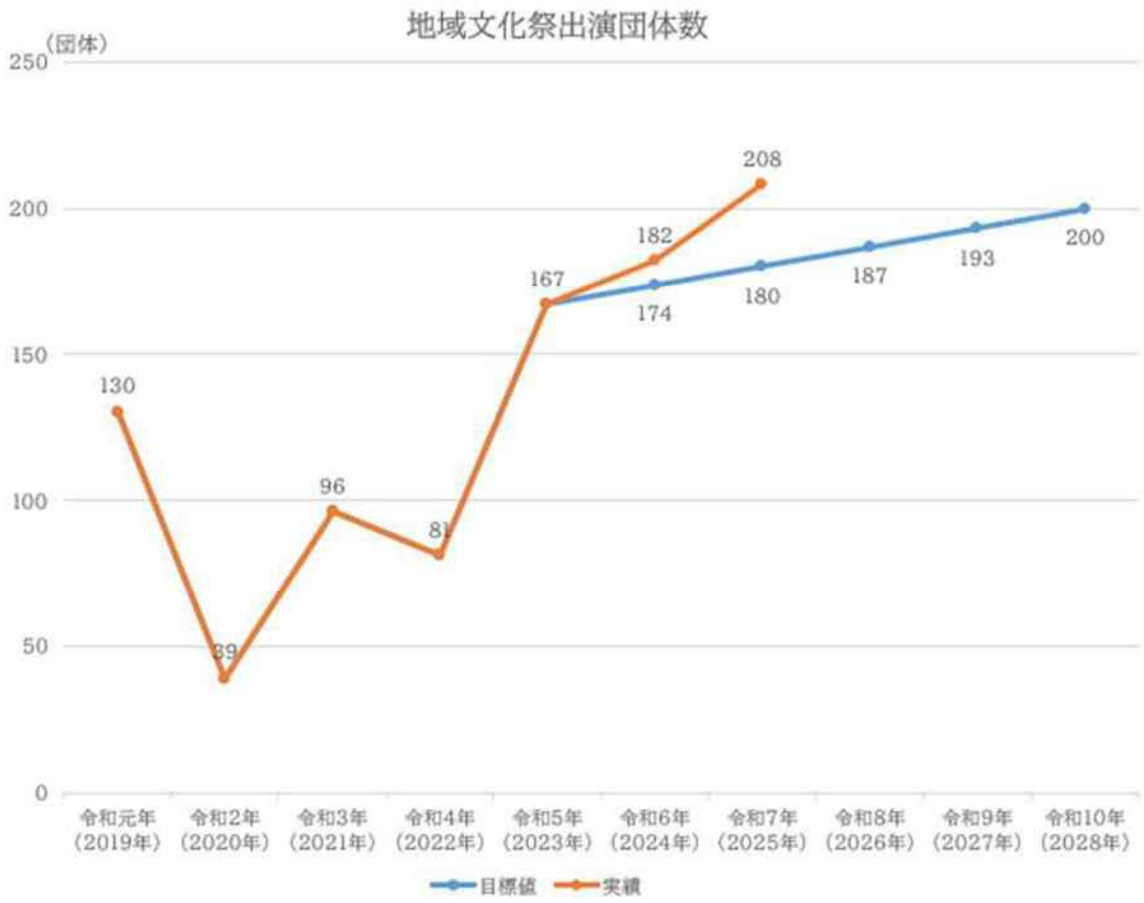
（１）生涯学習講座参加者数



施策総括	本計画及び安曇野市生涯学習推進計画に基づき、健康で豊かな生涯学習社会の実現に向け、生涯学習講座の実施に取り組みました。令和７年度においては、生涯学習に対する多様なニーズに応えるため、対面方式とオンライン方式のハイブリッド方式の講座を開催しました。
反省・課題	生涯学習は、誰もが生きがいをもち、健康の維持・増進に努めながら自己実現を図るとともに、その学びを活用して社会参画し、個人の自立や地域社会の共助につなげていくことを目的とします。ハイブリッド方式の講座を実施したものの、障がいの有無や年齢にかかわらず生涯学習を深めることができる環境づくりについては、更に充実する余地があります。
改善点	LINE によるアンケートの実施、SNS を活用した広報、手話通訳、要約筆記、オンライン配信などのユニバーサル対応、公民館講座の利用者受付・出欠管理など、一層の利便性、作業精度、業務効率の向上を図ります。

（生涯学習課）

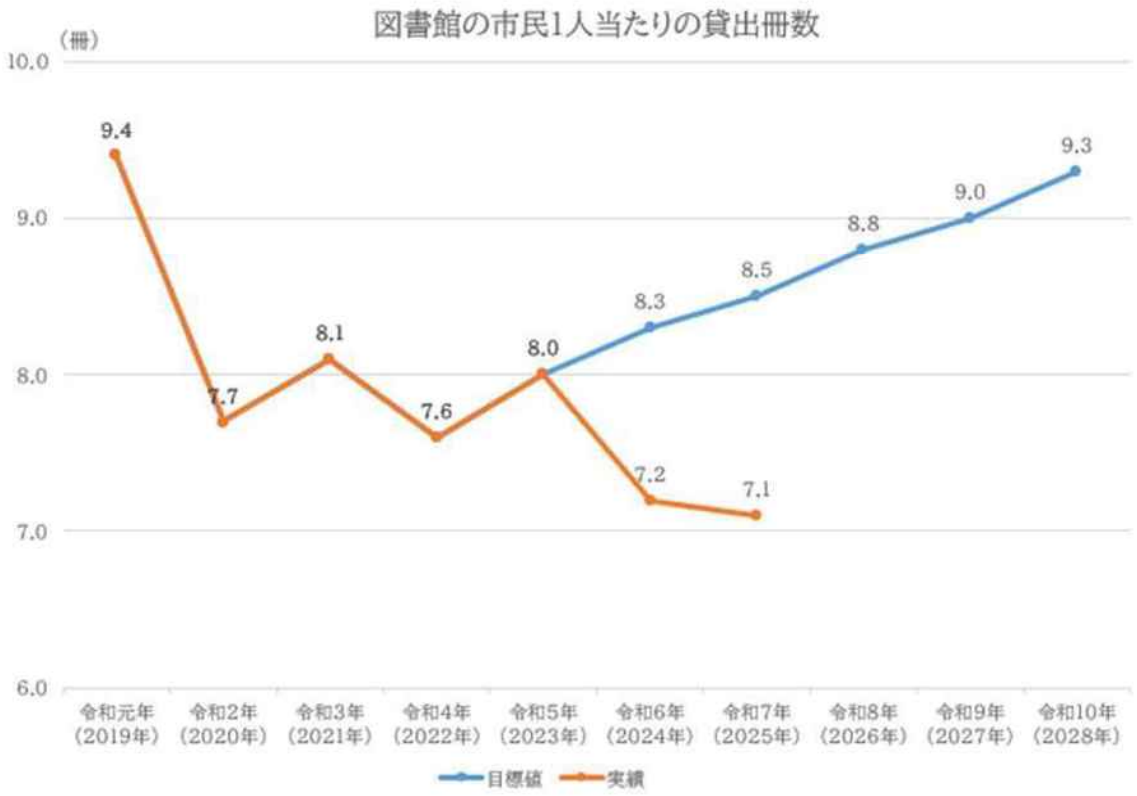
（２）地域文化祭出演団体数



施策総括	各地域における地域文化祭の開催を通じて、生涯学習の成果発表の場を創出し、目標値を超える団体の参加・出演がありました。地域文化祭への参加・出演・発表を通じ、新たな交流が生まれることが期待されます。
反省・課題	中央公民館事業である総合芸術展と分館事業である地域文化祭の位置付けや各公民館の役割分担が曖昧である点が課題となっています。これらを明確化し、効率的かつ効果的な事業運営を目指す必要があります。
改善点	課題解決に向けたアプローチの１つとして、まずは広く「人財」に関する情報を収集し、蓄積していくことが必要です。このための施策として、従前の「生涯学習リーダーバンク」を令和８年度から「生涯学習人財バンク」へ再編しました。生涯学習の指導者や自発的な活動を行っているグループ・団体に対し「生涯学習人財バンク」への登録を促し、情報収集を図るとともに、自主的な活動を支援していきます。

（生涯学習課）

（３）図書館の市民１人当たりの貸出冊数



施策総括	市民１人当たりの貸出冊数は、県内でも高い利用水準を維持しており、市民の読書活動を支える基盤として一定の役割を果たしています。しかし、貸出冊数は、近年は緩やかな減少傾向にあります。背景には、インターネットや SNS による情報取得の定着、電子書籍利用の拡大など、読書環境や情報取得手段の多様化があるものと考えられます。
反省・課題	市民１人当たりの貸出冊数は緩やかな減少傾向にあり、情報取得手段や読書環境の変化を踏まえたサービスの充実や効果的な情報発信が課題となっています。
改善点	令和８年度の図書館システム更新により、LINE を活用した蔵書検索、マイページ連携、予約資料到着通知等のサービスを開始し、利用者がいつでも手軽に図書館サービスを利用できる環境を整備することで、利便性の向上と継続的な図書館利用の促進を図ります。

（文化課）

令和８年度	
部	教育部
課	生涯学習課
係等	社会教育係

決算書ページ	223

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	01	社会教育総務費			
	事業	0110308	生涯学習推進費		施策	生涯を通じた学びの創出

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
4,124,000	2,693,475	0	1,430,525	65.3%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
271,000		地域日本語教育推進補助金	271,000		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

安曇野市生涯学習推進計画に基づき、健康で豊かな生涯学習社会の実現に向け各種事業に取り組みました。

1　生涯学習講座実施事業（決算額：1,583,906円）
(1) 市民大学講座　信州大学編（全５回）
信州大学との包括的連携事業として大学の協力をいただき、講座を開催しました。
受講者数：延べ186人
(2) 安曇野アカデミー（全５回）
「長谷川　清登と飯沼　正明」や「相馬愛蔵」など安曇野ゆかりの人物をテーマに、講演（５回）を開催しました。
受講者数：延べ188人
(3) 学校開放講座（15講座38回）
市内の中学校、高等学校の協力により、学校施設を会場に教員等が講師となり開催しました。
受講者数：延べ238人
(4) 日本語教室（毎週１回、豊科・穂高・三郷・明科地域で実施）
市内在住の外国人を対象とした日本語教室を市民ボランティアの協力により実施しました。
開催数：延べ163回　受講者数：延べ1,114人
(5) オンライン日本語教室（全14回）
オンラインでの日本語教室を開催しました。
受講者数：延べ76人

2　社会教育団体支援事業（決算額：1,109,569円）
各地域芸術文化協会等社会教育団体の運営支援として、６団体に補助金を交付しました。

上記の評価と課題等

学校開放講座は、市内の中学校・高校４校で開催しました。人気が高く、好評で、幅広い年齢層にご参加いただき、市民ニーズに即した講座を開催することができました。
また、安曇野アカデミーでは、毎年郷土の自然や歴史、文化を知るための講座として定着しています。

令和８年度	
部	教育部
課	生涯学習課
係等	社会教育係

決算書ページ	235

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	05	公民館費			
	事業	0110380	中央公民館事業費		施策	生涯を通じた学びの創出

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
73,804,000	72,182,709	0	1,621,291	97.8%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額

主要な施策（事務事業）の成果の概要

安曇野市公民館の理念の下、５地域の公民館と連携を取りながら、全市的な事業展開を図りました。

1　公民館運営審議会(決算額：108,500円)
　公民館運営審議会（委員12人）を３回開催し、公民館事業の計画・実績に意見を頂きました。
2　第19回安曇野市公民館大会（決算額：73,805円）
　６月８日（日）に開催し、功労者・公民館報表彰、事例発表及び講演会を行いました。
　参加者：254人
3　公民館報（決算額：2,093,892円）
　年４回発行し、地域のグループ、地域公民館・地区公民館の活動などを掲載しました。
4　第15回安曇野市総合芸術展（決算額：227,500円）
　３月５日（水）～13日（金）に各地域文化祭の出展作品から選考された122点を展示しました。
　入場者：584人
5　生涯学習情報誌（決算額：678,700円）
　年２回、計2,000部発行し、講座情報、サークルやリーダーバンク等の人財情報、施設情報のほか、おすすめ講座のレポート等を掲載しました。
　YouTube「Linkニュース」での情報発信を行いました。
6　地区公民館支援（決算額:32,072,104円）
　地区公民館活動補助金として98地区公民館に30,816,344円の補助を行い、活動を支援しました。
　地区公民館建設補助金として１地区公民館に1,255,760円の補助を行いました。
　市ホームページ内に地区公民館のサイトを立ち上げ、情報発信をしています。
7　公民館講座（決算額：1,296,000円）
　５地域の公民館が、地域の文化・歴史・特性を生かした講座を開催しました。

上記の評価と課題等

地区公民館が、十分な活動ができるよう費用の一部を補助することで、活動資金が乏しい公民館の支援を行うとともに、事業の活発化を図ることができました。
また、今年度は活用が１館であった地区公民館活動補助金についても、物価高騰等に対応するため拡充を検討し、地区公民館支援を進めていきます。

令和８年度	
部	教育部
課	生涯学習課
係等	豊科生涯学習係

決算書ページ	237

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	05	公民館費			
	事業	0110390	豊科公民館事業		施策	生涯を通じた学びの創出

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
7,236,000	6,391,316	0	844,684	88.3%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
61,200		豊科公民館雑入（講座受講料）	61,200		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　概要

市民の主体的な「学び」と「実践」を支援するとともに、地区公民館や団体等と連携・協働を深め、地域づくりを推進しました。

市民参加型のピアノリレーコンサートなどを開催し、ホールの利活用推進に努めました。

2　主な事業

（１）第21回豊科地域文化祭（10月30日～11月16日）　出展及び出演者数：600人

・菊花展　・短歌大会　・芸能発表会

・華道、書道展　・俳句大会　・一般作品展　外

（２）主な開設講座

講座名	開催数（回）	参加人数（人）
第63回童謡祭り・第45回作詞作曲コンクール	1	150
コーラスグループ交流発表会	1	200
楽しい菊づくり講座	7	154
彫刻の巨匠を巡る美術館ツアー	1	20
ICT講座	1	7

（３）地区公民館支援　役員研修会　開催回数：１回　参加者数：111人

（４）体育事業

・球技大会（ソフトボール・ワンバウンドふらば～るバレー）を開催しました。

・第20回豊科地域さわやか市民運動会を開催しました。

・ボッチャ大会を開催しました。

3　主な事業経費

・公民館事業報償費（サポート委員謝礼、文化祭・運動会等記念品　外）　769,726円

上記の評価と課題等

事業の継続性を大事にしながら、フレイル対策など時代に即したものへと展開し、地域づくりと人づくりを進めます。

令和８年度	
部	教育部
課	生涯学習課
係等	穂高生涯学習係

決算書ページ	239

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	05	公民館費			
	事業	0110400	穂高公民館事業		施策	生涯を通じた学びの創出

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
5,697,000	5,368,339	0	328,661	94.2%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
92,122		穂高公民館雑入（講座受講料）	92,122		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　概要

公民館事業は、人々が学び、その成果を生かす環境を整え、より良いまちづくりを進めるための事業の一つとなっている。穂高納涼祭を開催し市民が繋がりを深め、親睦と交流を図ることができた。同じく6月と10月に球技大会を開催し、運営では競技に精通した市民の協力を得ることにより、当日の競技進行等をスムーズに進めることができ協働が図られた。講座では市職員を講師にする等コスト低減に努めた。

2　主な事業

（1）穂高地域文化祭（10月24日～26日）

・盆栽・山野草展　・あづみ野菊花展
・総合美術展・芸能祭り
} 57団体・702人 } 来場者数：1,964人

（2）主な開設講座

講座名	開催数（回）	参加人数（人）
健康づくり講座	20	248
自然体験・環境講座	6	138
季節のコンサート	3	259
文化教養講座	8	173
趣味の講座	18	206

（3）6月 9人制バレーボール　参加８チーム（７公民館）延べ88人

（4）6月 ソフトボール　雨天中止

（5）8月 穂高納涼祭（ステージ発表・盆踊り）会場;穂高神社北神苑　来場者およそ4,500人

（6）11月 ソフトバレーボール（3カテゴリー）参加36チーム（21公民館）延べ232人

3　主な事業経費

・穂高地域文化祭（パンフレット印刷代、会場設営経費ほか）：929,000円
・公民館総合補償制度加入掛金：194,000円

上記の評価と課題等

事業の継続性を大事にしながら、フレイル対策など時代に即したものへと展開し、地域づくりと人づくりを進めます。

令和８年度	
部	教育部
課	生涯学習課
係等	三郷生涯学習係

決算書ページ	241

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	05	公民館費			
	事業	0110410	三郷公民館事業		施策	生涯を通じた学びの創出

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
6,205,000	5,904,692	0	300,308	95.2%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
8,400		三郷公民館雑入（講座受講料）	8,400		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　概要

地域が抱える様々な課題への対応などについて、学習機会を企画・提供し、事業を行ってきました。

2　主な事業

（１）三郷祭（10月11日～11月14日）

・ふれあいコンサート　10月11日（土）　来場者数：　246人
・市民運動会　10月19日（日）　来場者数：1,200人
・文化産業展　10月25日（土）～26日（月）　来場者数：1,200人
・菊花展　11月１日（土）～14日（金）　来場者数：　613人
・芸能発表会　11月７日（土）　来場者数：　540人

（２）主な開設講座

講座名	開催数（回）	参加人数（人）
生きがい講座	5	191
親子支援講座	7	97
健康長寿講座	5	136
教養講座	12	508
ＩＣＴ講座	2	18

（３）地区公民館支援

・普通救命講習会　８月２日（土）　受講者数：　26人

（４）体育事業

・５月及び２月に三郷地域スポーツ大会を開催しました。競技種目は、５月は「ソフトバレーボール」、２月は「ボッチャ」でした。

3　主な事業経費

・市民運動会及び文化産業展設営業務委託　605,880円

上記の評価と課題等

今後も事業の継続性を大事にしながら、フレイル対策やICTなど時代に即したものへ展開し、地域づくりならびに人づくりを進めます。

令和８年度	
部	教育部
課	生涯学習課
係等	堀金生涯学習係

決算書ページ	241

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	05	公民館費			
	事業	0110420	堀金公民館事業		施策	生涯を通じた学びの創出

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
5,589,000	5,147,612	0	441,388	92.1%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
93,853		堀金公民館雑入（講座受講料等）	93,853		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　概要

地域の学習や交流の場であるとともに、地域づくりの拠点としての役割を果たすため、多様化する市民ニーズに対応する各種の事業の企画や実施及び地区公民館の支援を行いました。

2　主な事業

（１）堀金地域文化祭（10月31日～11月２日）

・芸能発表会（出演：18団体/162人　来場：245名）

・作品展（出展：36団体/680点）

（２）開設講座

講座名	開催数（回）	参加（延べ人数）
地域文化・歴史講座	12	477
趣味の講座	18	290
健康づくり講座	13	366
子ども公民館講座	14	176

（３）公民館報「常念の里」発行　　12回

（４）地区公民館支援　公民館関係者研修会　1回　　参加者数：51人

3　主な体育事業

・スポーツ大会（みんなでスポーツin常念：191人・市民運動会：513人・駅伝大会：165人）

4　主な事業経費

・公民館事業報償費（サポート委員謝礼・文化祭等記念品）：　942,962円

・公民館総合補償制度加入掛金：194,000円

上記の評価と課題等

事業の継続性を大事にしながら、フレイル対策など時代に即したものへと展開し、地域づくりと人づくりを進めます。

令和８年度	
部	教育部
課	生涯学習課
係等	明科生涯学習係

決算書ページ	243

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	05	公民館費			
	事業	0110430	明科公民館事業		施策	生涯を通じた学びの創出

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
4,847,000	4,595,407	0	251,593	94.8%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
31,200		明科公民館雑入（講座受講料）	31,200		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　概要

地区公民館役員を対象に定期会議を開催し、地域づくりの向上を図ることができました。

市民全体の地域づくり団体等との協働により、地域課題に目を向けた講座や学習会を企画、運営することができました。

スポーツ大会等の運営はスポーツ推進員等の協力を得ながら事業を行うことができました。

2　主な事業

（１）明科地域文化祭（10月31日～11月２日）

・展示発表（14団体・８個人）　出展者数　：　603 人

・お楽しみサロン（参加団体：３団体）　出展者数　：　65 人

・芸能発表会（参加団体：18団体）　出展者数　：　112 人

（２）開設講座

講座名	開催数（回）	参加人数（人）
健康づくり講座	11	253
地域文化・歴史・自然探索講座	7	136
ゆとりと生きがい講座	9	274
地域食材活用講座、ICT講座など	5	163

3　主な事業経費

・文化祭報償費　：　159,743　円

・公民館総合補償制度加入掛金　：　194,000　円

上記の評価と課題等

今後も事業の継続性を大事にしながら、フレイル対策やICTなど時代に即したものへ展開し、地域づくりならびに人づくりを進めます。

令和８年度	
部	教育部
課	文化課
係等	図書館係

決算書ページ	243

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	06	図書館費			
	事業	0110435	図書館費		施策	生涯を通じた学びの創出

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
204,650,000	201,322,702	0	3,327,298	98.4%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
28,237,386		指定寄付金	50,000		
		市町村振興協会交付金	28,058,268		
		図書カード再発行手数料	16,340		
		図書館コピー使用料	112,778		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　令和７年度図書館利用状況

	中央	豊科	三郷	堀金	明科	合計	R６実績	比較
所蔵冊数＊	230,517	85,355	54,014	48,701	49,865	468,452	464,783	3,669
登録者数＊（人）	17,244	7,484	3,856	1,526	1,749	31,859	32,332	-473
開館日（日）	286	285	285	286	285			
利用者数＊（人）	100,593	30,883	24,054	11,947	6,773	174,250	177,401	-3,151
貸出点数（点）	387,229	110,883	101,834	50,319	23,920	674,185	690,846	-16,661

＊所蔵冊数：視聴覚資料を除く

＊登録者数：個人登録者数　　利用者数：利用者カードで本を借りた延べ人数

2　主な事業

（１）図書館資料収集事業　備品購入費：19,299,854円　　購入点数(視聴覚資料含む):8,930点

〈内訳〉○通常図書購入等　18,805,129円

○学校図書館調べ学習用図書の購入　494,725円

（２）市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」への登録推進　　負担金：346,152円

安曇野市　R７登録者数　525人（全登録者数　1,820人）　貸出件数　12,655冊

（３）各種おはなし会、図書館講座、上映会等の開催　　報償費・需用費：122,426円

読書推進のための講座等、各種イベントを開催しました。　延べ参加人数　3,139人

（４）豊科図書館開館15周年記念講演会　参加人数：251人（PV含む）　報償費：220,000円

講師：池澤　夏樹さん（安曇野市在住/詩人・作家）

テーマ「いま住むところと遠いところ」でご講演いただき、多くの方が熱心に聴講しました。

応募者多数のため急遽パブリックビューイング会場を設けるなど、多くの反響がありました。

（５）市内小中学校、施設等との連携事業

・小中学校との連携　　・調べ学習用図書の整備　1,524冊（R7購入：159冊）

・学校配本　調べ学習に必要な資料の選書及び配本　1,229冊

・小中学校新１年生の登録の推進（申込書の配布）

学校司書及び司書教諭との交流を図り、学校の要望に沿えるよう連携を進めています。

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	06	図書館費			
	事業	0110435	図書館費		施策	生涯を通じた学びの創出

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

②おでかけ図書館　　参加イベント数：14件　利用者総数（イベント参加数）：809人
環境課や公民館、文書館など市主催イベントに参加し、関連本の展示や貸出しを行いました。本を紹介することで、更なる学びの機会となっています。

③図書展示
テーマや時事的な展示に加え、市主催イベント等に興味を持っていただけるよう関連本の展示を行いました。

④３市（安曇野・松本・塩尻）連携展示　　テーマ「三市ロケ地巡り」

（６）ブックスタート・セカンドブック事業（絵本のプレゼント）　　報償費：1,162,370円
①ブックスタート事業（４カ月健診時）　　実施回数：24回　464人
②セカンドブック事業（２歳児健康相談時）　　実施回数：25回　593人

（７）読書支援サービス　　朗読協力者（有償ボランティア）：17人　報償費：165,000円
①広報「あづみの」（DAISY録音図書）の製作　　利用者：３人及びホームページへのアップ
②朗読協力者研修会：年11回開催
③録音図書及び点字図書の相互貸借貸出サービス　　貸出数：103点

（８）図書館フェスタの開催
期間：９月６日（土）～７日（日）（リサイクルフェア中央館のみ13日（土）まで）
①講演会　　戸来祐子さん講演会　　参加人数：64人
②各種イベント　　おはなし会・ビブリオバトル・ワークショップなど　　参加人数：288人
③リサイクルフェア　　来場者数：3,731人　　リユース数：9,983冊

（９）図書館配本事業　　年間303日運行　　委託料：4,173,312円
①図書館間の予約本及び返却本の集配
②団体貸出として、認定こども園、児童館、福祉施設などへの配本　　31団体：17,908冊

(10) 図書館協議会の開催　　年２回　　報酬：56,000円

(11) データベースの提供　　使用料：699,600円
信濃毎日新聞統合データベース、官報情報検索サービス等：４種

(12) レファレンスサービスの充実　　年間利用総数：8,544件

(13) 図書館の利用促進及びＰＲ
○読書通帳の配布　　配布数：1,647冊　　100冊到達者：97人
○市ホームページ・Ｘ（エックス）・LINEからの情報発信
○図書館だよりの発行：各世代（大人・子ども・中高生）に向け月１回　　等

上記の評価と課題等

資料収集は、市民ニーズや蔵書構成を踏まえ、計画的な整備に努めました。また、講演会や展示、読書活動推進事業、レファレンスサービスの充実を通じて、市民の学びや読書活動を支援しました。電子図書館「デジとしょ信州」についても、学校現場での活用を中心に利用が広がっています。今後も利用者ニーズを把握し、利用しやすい図書館運営に努めます。

◆基本方針５【スポーツ】
スポーツを通じて心や体を健やかに育む地域の実現

１　施策の方向性

子どもたちが「スポーツが好き」と感じるようにするためには、親子でスポーツに親しむ場面を生み出すなどスポーツに慣れ親しむ機会をつくることや、達成感や成功を感じることのできる体験を積み重ねる機会の拡充が求められます。また、多くの人にスポーツを楽しんでもらうためには、幼児から高齢者まで各年齢層に合ったスポーツ活動の機会を増やすことが必要です。幅広い世代のニーズに合わせ、スポーツを楽しむ環境を充実させます。

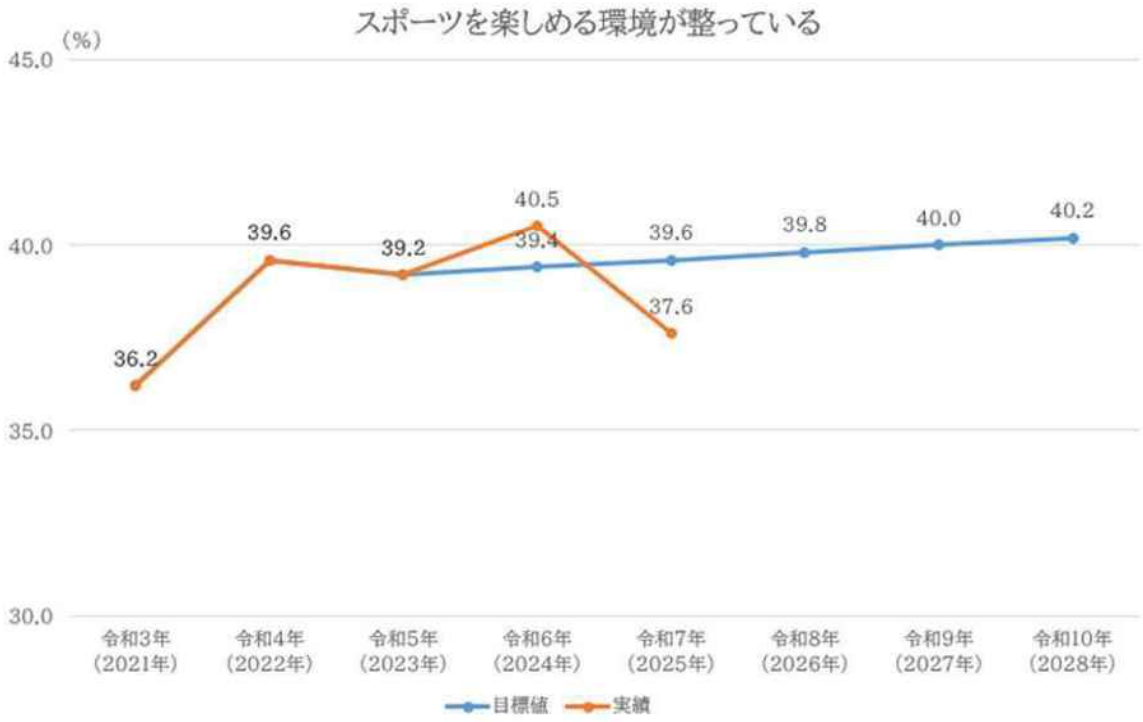
２　数値目標

指標	令和５年度	令和７年度
「スポーツを楽しめる環境が整っている」と思う市民の割合	39.2%	37.6%

（出典:市民意識調査）

３　令和７年度事業の成果

（１）「スポーツを楽しめる環境が整っている」と思う市民の割合



施策総括	校庭、体育館の設備等は都度修繕を行いながら、授業だけでなく放課後活動等にも利用する際に不便が生じないようにしました。地域とも協力し、スポーツに親しめる機会の提供に努めました。
反省・課題	施設や設備の老朽化もあり、修繕等を要する箇所が増えています。地域クラブの活動でも、種目によっては指導者を見つけることの困難さがあります。
改善点	引き続き安全にスポーツできる環境を確保していきます。地域クラブとの連携や地域の指導者と協力を得て、多様なスポーツを楽しめる機会と情報の提供に努めます。

（学校教育課）

基本方針5に関係する主要な施策については、以下をご確認ください。

プール等施設の維持修繕（41～44P）
体育館照明器具のLED化（45P）
地域公民館でのスポーツ大会支援（68P～72P）

◆基本方針６【文化芸術】
文化芸術を育むとともに歴史・文化遺産を継承し続ける地域の実現

１　施策の方向性

本市は、荻原守衛（碌山）、臼井吉見、高橋節郎など著名な文化人が生まれ、幼少期を過ごした地であり、その豊かな文化的背景は現在も息づいています。これらの文化人たちを育んだ地域の文化は、本市の誇りであり、地域のアイデンティティを形成する重要な要素となっています。

市民が伝統文化や文化遺産に親しみ、それを継承し、新たな文化芸術活動の創造や交流の担い手となるよう、安曇野らしい文化芸術の更なる振興を図ります。

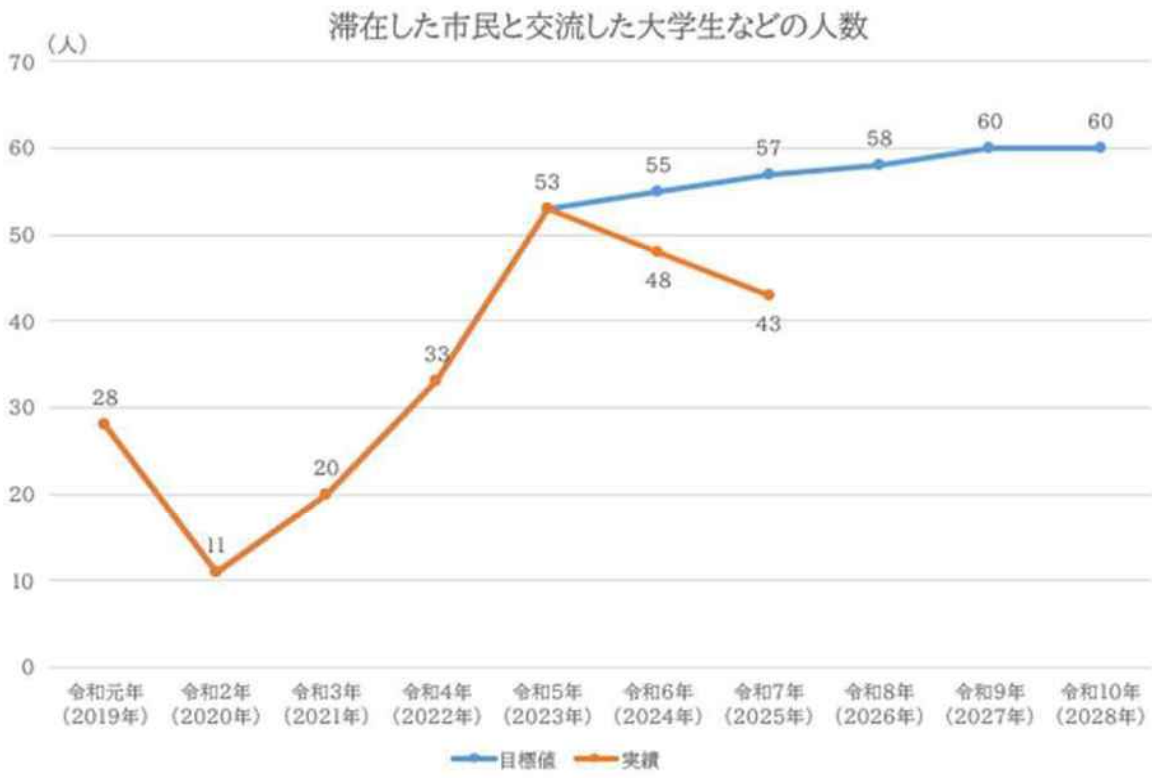
２　数値目標

指標	令和５年度	令和７年度
滞在し市民と交流した大学生などの人数	53 人	43 人
新進音楽家の登録数	73 人	76 人
公立美術館や博物館の講座などの参加者数	3,188 人	6,002 人

（出典:文化課作成資料）

3　令和７年度事業の成果

（１）滞在し市民と交流した大学生などの人数



施策総括	交流事業の学生の人数は、実施した年度の事業内容や受け入れ側の小中学校等のニーズにより変動します。中学校の部活動を主な交流機会としてきましたが、部活動等の見直しもあり、交流人数は減少しました。芸術系大学との連携を図り、市内での芸術家や学生等の滞在制作の本格実施や、市民との交流機会の創出できる拠点として鐘の鳴る丘集会所をリニューアルしました。
反省・課題	滞在する学生等を支援する体制の構築が必要となります。市内全域を活動の対象としたため、市民との交流が散漫な傾向にあります。
改善点	令和８年度の交流は集会所のある穂高新屋区内を対象とし、活動範囲を限ることで集中した交流とします。併せて、区内の古民家の活用や、送迎等の支援方法を見直すなど、滞在にあたっての課題解消を図ります。大学との交流は、大学側の状況にも左右されるため、それによっては事業の運営方法の検討も必要となります。

（文化課）

（２）新進音楽家の登録数

施策総括	音楽系大学等への情報提供や、オーディション公募の周知などにより、一定の応募者数が確保できています。オーディションにて選出される音楽家も増加しており、応募者の質の向上が見られました。
反省・課題	オーディション応募条件に過去の選出者を制限する規定がなかったため、同一の音楽家が応募・選出されました。新進の音楽家が活躍する機会とするため、要綱の見直しが必要です。
改善点	審査員の東京藝術大学の教授とも相談し、他のオーディションと同様に、過去の選出者を抑制する規定を設け、安曇野市での活動を希望する新進音楽家の活躍する機会を増やします。コンサートやワークショップの開催等、登録者が活動できる機会を創出していきます。

（文化課）

（３）公立美術館や博物館の講座などの参加者数

施策総括	安曇野市美術館・田淵行男記念館・高橋節郎記念美術館の大規模改修工事が終了しました。今後は、美術館の活性化を図っていく必要があります。豊科郷土博物館では、戦後 80 年平和事業の一環として、企画展「日中戦争、太平洋戦争下の安曇野の人々」を開催し、その関連講座を実施しました。令和６年度に小説『安曇野』が復刊された影響もあり、臼井吉見文学館が主催する講演会の来場者が増えました。豊科郷土博物館では、学校等への出前講座の回数の増加により博物館講座等の参加者数が増加、目標を上回る数値となりました。
反省・課題	博物館法の改正に対応した登録博物館の更新手続きのためにも、各館の運営方針等を明確にする必要があります。多くの博物館施設で、建物の老朽化や空調・電気設備の未整備や陳腐化が懸念されています。特に空調設備未整備は、来館者の利用に直結する課題となっているため、利用に支障を来さないように改修・修繕を行っていく必要があります。
改善点	登録博物館の更新に向けて、各施設の指針を策定します。資料のデータベース化と公開に着手します。豊科郷土博物館の

	照明器具のLED化の設計及び工事等を行うほか、貞享義民記念館のシアターに設置されているプロジェクターが老朽化しているため、更新工事を予定しています。

（文化課）

令和８年度	
部	教育部
課	文化課
係等	文化振興担当

決算書ページ	223

予算	款	10	教育費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	01	社会教育総務費			
	事業	0110310	文化振興費		施策	文化・芸術活動の推進

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
650,031,000	644,330,785	0	5,700,215	99.1%

特定財源の決算額		細節名	金額	細節名	金額
422,671,171	左記の内訳	安曇野市文化振興基金利子	120,224	美術館グッズ等販売	80,000
		名誉市民田淵行男顕彰基金利子	5,372	交流学習センター講座受講料	318,900
		ちくに生きものみらい基金利子	149,648	髙橋節郎記念美術館電気料	2,255,724
		ちくに生きものみらい基金繰入金	1,382,520	豊科近代美術館大規模修繕工事事業（特例債）	397,600,000
		安曇野市文化振興基金繰入	14,619,866	文化団体補助事業（過疎債ソフト）	4,400,000
		名誉市民田淵行男顕彰基金繰入金	1,738,917		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

「第２次文化振興計画」に掲げた施策の実現に向け諸事業を実施しました。
　諸団体への補助、協働による事業実施などを通じて、市民が多様な文化芸術に親しむ機会を創出しました。

1　芸術教育普及事業

(1) 東京藝術大学との交流事業（楽器演奏指導・コンサート）　参加者　大学生20人、中学生73人
　第１回：楽器演奏指導　11月15日豊科北中学校、16日明科中学校
　第２回：２月７日、８日　市内中学生有志

(2) 能楽教室　　能楽に親しむ機会として、平成13年から市内小中学校で開催しています。
　６月17日　豊科南小学校、　６月18日　明北小学校

(3) 新進音楽家オーディション及び選出者のコンサート
　ア　あづみの新進音楽家公開オーディション　７月６日　一般６組６人　ジュニア12組15人
　イ　あづみの新進音楽家コンサート　12月６日　出演者４組６人、入場者174人
　ウ　あづみのジュニアクラシック音楽会　３月14日　出演者８組11人、入場者118人
　エ　０歳からのミニコンサート　　第１回５月30日入場者106人、第２回10月４日入場者87人

(4) ピアニスト日南由紀子さんによる学校でのワークショップ・コンサート
　ワークショップ　11月19日　コンサート　11月20日　穂高北小学校

(5) 熊井啓監督顕彰事業
　ア　映画上映会／奥田瑛二・安藤和津トークショー　９月13日「千利休　本覺坊遺文」343人
　イ　ミニ上映会５月14日「日本列島」47人／２月13日「帝銀事件 死刑囚」34人

(6) 美術系大学との連携事業
　ア　安曇野アーティスト・イン・レジデンス（安曇野AIR）
　　長野県・東京藝術大学・安曇野市の連携により、若手芸術家３名の滞在制作を実施しました。
　　市内学校・施設へワークショップ　人権共生×文化芸術フェスタワークショップ　10月４日
　　鐘の鳴る丘集会所染色ワークショップ　10月５日
　　展覧会　10月18日～10月26日　穂高交流学習センター「みらい」
　イ　京都芸術大学連携アートプロジェクト（AKAP）
　　夏展　９月20日～10月５日安曇野髙橋節郎記念美術館、貞享義民記念館、穂高陶芸会館
　　冬展　１月10日～１月17日　穂高交流学習センター「みらい」

予算	款	10	教育費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街 安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	01	社会教育総務費			
	事業	0110310	文化振興費		施策	文化・芸術活動の推進

その２

主要な施策（事務事業）の成果の概要

２　諸団体との協働事業
(1) 第21回あづみの公園早春賦音楽祭　５月11日　入場者8,141人　補助金1,200,000円
(2) 第34回信州安曇野薪能　８月23日　入場者485人　補助金8,000,000円
(3) 『安曇野文化』刊行　55～58号　補助金2,100,000円
(4) 第63回童謡祭り　２月23日　補助金374,066円
(5) 第７回田淵行男賞写真作品公募　８月10日　表彰式・記念講演　参加者74人　補助金2,000,000円
受賞作品巡回展（東京・大阪・記念館）　来場者数8,124人
(6) ミュージアム活性化事業　市内の公立私立の博物館・美術館が連携して事業を実施しました。
ア　大学連携　施設を巡るバスツアー　６月８日　信州大学生27人、12月13日　信州大学生30人
イ　美術館博物館年間予定／パスポート　市立施設の保護者１名が入館無料となるパスポートの発行
市内小中学校の児童生徒に配布しました。利用者966人
ウ　ギャラリートークリレー　10月25日～11月３日　全15館　参加者731人
エ　学校ミュージアム　11月10日　豊科北小学校、11月25日～28日　堀金中学校、
12月10日　豊科北中学校、　１月22日　穂高東中学校、１月23日　豊科南中学校
オ　あづみのミュージアムカード2025　参加館数　25館　年間配布数　1,195枚
(7) 長野県文化振興事業団「かいころく」公演
鐘の鳴る丘集会所にて滞在制作　１月19日～２月１日
安曇野市美術館にて公演　１月31日、２月１日　各日２回公演　計115人
(8) 田淵行男記念館　新田樹写真展「Sakhalin/サハリン」　来館者数714人　補助金600,000円

３　施設リニューアルオープン関連
(1) 安曇野市美術館　リニューアルオープンセレモニー　８月30日　参加者65人
シンポジウム　９月20日　参加者20人
(2) 穂高鐘の鳴る丘集会所　リニューアルオープンセレモニー・セミナー　６月８日　参加者60人

４　財政支援団体への補助金交付
(1) 公益財団法人安曇野文化財団運営補助　補助金8,294,000円
(2) 一般財団法人井口喜源治記念館運営補助　補助金1,400,000円

５　資料受納・収集・整理事務
美術資料等選定委員会の審査を経た美術作品の収集を行いました。

６　ちくに生きものみらい基金充当事業　実施件数21件　参加者数982人　講師・バス委託料937,120円
学級単位等で行う自然観察会用のバス代の支出、講師の手配、併せて博物館等の利用促進も図りました。

７　博物館・美術館等の管理運営
(1) 博物館協議会　第１回：５月23日　第２回：10月24日　第３回：３月17日
(2) 美術資料等選定委員会　第１回：10月24日

８　文化振興基金積立　将来の文化振興事業の実施、博物館の修繕に備え積み立てを行いました。
14,000,000円

予算	款	10	教育費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街 安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	01	社会教育総務費			
	事業	0110310	文化振興費		施策	文化・芸術活動の推進

その３

主要な施策（事務事業）の成果の概要

9　指定管理委託料

施設名	指定管理者	指定管理委託料（円）
安曇野市美術館	公益財団法人安曇野文化財団	43,800,000
田淵行男記念館		15,200,000
飯沼飛行士記念館		3,100,000
穂高陶芸会館		7,500,000
安曇野髙橋節郎記念美術館		25,300,000

10　施設修繕等

経年劣化が認められた施設の修繕等を行いました。主な内容は以下のとおりです。

施設名	修繕等内容	修繕費（円）
穂高陶芸会館	誘導灯修繕、砕石舗装の整備	521,400
田淵行男記念館	公衆トイレ身障者トイレ戸修繕	660,000
安曇野市美術館	屋外タイル修繕	261,800

11　文化施設長寿命化

公共施設長寿命化計画に基づき、文化施設の改修工事設計業務を実施しました。

(1)豊科近代美術館大規模改修工事（R6債務負担行為）

大規模改修工事　720,500,000円　R7:432,300,000円（R6:288,200,000円）

工事監理業務委託　18,150,000円

(2)田淵行男記念館　外壁・屋根等改修工事

改修工事　19,987,000円

工事監理業務委託　671,000円

単価入替　126,500円

上記の評価と課題等

「第２次文化振興計画」に基づき諸事業を行い、市民が多様な文化芸術に親しむ機会を創出することができました。長寿命化計画に基づく安曇野市美術館の大規模改修工事が完了し、市内の美術館の基幹施設として位置づけました。また、穂高鐘の鳴る丘集会所はアーティストの滞在拠点として新たな運用を開始しました。市民の自主的な文化芸術活動や文化的な暮らしの実現に向け様々な取り組みを支援し、連携と参画を促進していきます。

令和８年度	
部	教育部
課	文化課
係等	博物館担当

決算書ページ	225

予算	款	10	教育費	総合計画	将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	01	社会教育総務費			
	事業	0110320	郷土博物館費		施策	歴史・文化遺産の継承

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
48,105,000	42,899,626	0	5,205,374	89.2%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
800,860		郷土博物館等使用料	250,300		
		郷土博物館刊行物頒布代	317,580		
		郷土博物館雑入	62,580		
		ちくに生きものみらい基金繰入金	170,400		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

１　年間利用者数　豊科郷土博物館　10,020人、　穂高郷土資料館　836人

２　豊科郷土博物館企画展・特別展

(1)　市制施行20周年記念事業及び戦後80年平和事業「日中戦争、太平洋戦争下の安曇野の人々」
　会期　８月２日(土)～10月５日(日)　　入館者数　1,560人

(2)　冬季特別展「一体、これは何だろう？　昔の〇珍道具」
　会期　令和８年１月10日(土)～２月１日（日）　入館者数　232人

(3)　春季企画展「土の中からの贈り物」
　会期　令和８年２月21日(日)～５月６日(水)　入館者数　646人（３月31日まで）

３　刊行物・印刷物

「ふるさと安曇野きのうきょうあした」№31、
「年報令和６年度版」、『豊科郷土博物館紀要第13号』、
『博物館ブックレット７　安曇野の戦争と、戦争遺跡―決して消えない戦争の記憶―』

４　新市立博物館準備

「安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会」において、平成27年度に策定した「安曇野市新市立博物館構想」を再検討し、「安曇野市新市立博物館等の整備方針に係る提案書」をまとめました。

５　コンパクト展示　　実施回数　全13回、延べ日数589日

６　長野県立歴史館企画展への協力

長野県立歴史館で開催された令和７年度夏季企画展「安曇野～知られざる里山の祈り～」では、穂高郷土資料館の収蔵資料の貸出しや、市内の寺院への調査等を通じて、実施に協力しました。

上記の評価と課題等

企画展「日中戦争、太平洋戦争下の安曇野の人々」では、安曇野市域出身の戦没者と戦争遺跡の両面から、先の大戦にアプローチする展示により、多くの方々の関心を集めました。

豊科郷土博物館では、子どもたちや親子を対象とした企画、市内小中学校への出前講座にも力を入れています。夏休みのイベントとして、郷土博物館及び郷土資料館の両館で、勾玉づくり体験を行いました。冬季には、穂高郷土資料館の民具を活用した「昔の暮らしin博物館」を郷土博物館で開催し、４日間で142人（このうち子ども78人）の参加がありました。また市内小中学校及び高校、また幼稚園への出前講座も42回実施しました。

「安曇野市新市立博物館等の整備方針に係る提案書」では、平成27年度に策定された「安曇野市新市立博物館構想」の方針を受けて、新市立博物館の新規建設、既存施設の統廃合の方向性が打ち出されました。今後は、新市立博物館整備に向け市としての方向性を示す必要があります。

令和８年度	
部	教育部
課	文化課
係等	博物館担当

決算書ページ	227

予算				総合計画		
	款	10	教育費		将来ビジョン	自然、文化、産業が織りなす　共生の街　安曇野
	項	05	社会教育費		目標	学び合い 人と文化を育むまち
	目	01	社会教育総務費			
	事業	0110335	貞享義民記念館事業		施策	歴史・文化遺産の継承

単位：円

予算現額 ①	決算額(支出済額) ②	翌年度繰越額 ③	不用額 ①－②－③	執行率 ②/①
24,159,000	21,973,957	0	2,185,043	91.0%

特定財源の決算額	左記の内訳	細節名	金額	細節名	金額
425,290		貞享義民記念館使用料	233,720		
		義民館刊行物等頒布代	68,000		
		義民館雑入	123,570		

主要な施策（事務事業）の成果の概要

1　年間利用者数　5,543人

2　自主企画展

(1)　「身近な擬態昆虫写真展」　会期　４月26日(土)～６月１日(日)　入館者数　810人

(2)　「人権ポスターパネル展」　会期　９月20日(土)～９月28日(日)　入館者数　22人

(3)　京都芸術大学「2025　AKAP　夏展」　会期　９月20日(土)～10月５日(日)　入館者数　61人
（市と京都芸術大学が連携したアートプロジェクトの展覧会場として館を利用）

(4)　「安曇野から考える人権展」　会期　12月９日(火)～12月26日(金)　入館者数　29人

(5)　企画展「中林梧竹と安曇野～筆が結ぶ明治のこころ～」
会期　令和８年１月17日(土)～３月１日(日)　入館者数　203人

3　公募企画展　開催回数12回（他団体の出展者と貞享義民記念館が共同して行う企画展）

4　主な講座

(1)　臨地講座「水野氏と松本城下町ウォーク」　開催日　５月28日(水)　参加者　20人

(2)　臨地講座「貞享騒動旧跡巡り」　開催日　６月14日(土)　参加者　19人

(3)　人権平和研修「無言館と塩田三重塔の見学」　開催日　10月10日(金)　参加者　30人

(4)　基礎講座

ア　「貞享騒動ってどんな一揆」　開催日　５月17日(土)　参加者　16人

イ　「貞享騒動の伝承と物語化」　開催日　５月31日(土)　参加者　９人

(5)　古文書講座「『赤蓑談』を読もう」　開催日　６月～11月の土曜日（全８回）
参加者　延べ118人

(6)　夏休み親子講座「消しゴムハンコでマイうちわを作ろう」
開催日　８月９日(土)　参加者　10組30人

(7)　夏休み親子講座「回る灯篭を作ろう」　開催日　８月10日(日)　参加者　12組29人

5　出前講座

(1)　人権学習　市内地区公民館　８ヶ所

(2)　歴史講座　市内公民館　３ヶ所　松本市内公民館　２ヶ所

(3)　児童・生徒の来館のための事前学習　１校

上記の評価と課題等

自主企画展「中林梧竹と安曇野」では、安曇野市や松本市から梧竹の作品や関連資料の情報が寄せられ、近代における貞享義民顕彰の動きについて、新たな知見が得られました。

貞享騒動の顕彰や「生きる権利の主張」といった館が掲げるテーマについて、発信をしていきます。

第４　安曇野市教育振興基本計画策定検討委員会委員の意見

令和７年度の実施した教育委員会の事業に関し、安曇野市教育振興基本計画策定検討委員会の委員各位から次のとおり意見があった（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第２項及び安曇野市教育振興基本計画策定検討委員会設置要綱第２条第２号）。

１　各委員の意見

方針	掲載	意見
基本方針１【子ども・子育て】	P8～	・市として、どのように現場の意見を吸い上げるか、児童クラブに入れたいという要望と実態が合っていないのではないか。現場を見て計画を立て直してほしい。地域の力を借りて子育てをしていく方向に向いている。地域公民館を使えないだろうか。詰込みではなく、ひらく、という考えがあるとよい。 ・市が支援をしていることは理解しているが、指標や課題を見ると、市の支援が子育て世帯には伝わっていない、理解されていないのではないかと思う。 ・数値が下がった結果について、児童クラブの受け入れの部分だけなのか、ほかに原因があるのか分析する必要がある。豊科南小学校は以前他の場所に児童クラブがあったが、同じ場所になってから評判が良い。評判が良いから５、６年生までという声が出る。市でやっていることをある程度理解した上で、それ以上の支援を求める意見があるのではないか。 ・人員の確保ができない要因を探る必要があるのではないか。市民として危機感がある。
基本方針２【学校教育】	P28～	・「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると感じている児童生徒の割合」に回答しているのは登校している児童生徒。数値には表れていない子どもがいるのではないか。困りごとや不安がある子どもほど、この回答に表れていないのではないか。踏まえると、数値が良くなったと単純に解釈するのではなく、課題として挙げていくと良い。 ・各学校はグランドデザインに基づく調査を行っている。豊科北中学校区では、どの調査の結果も高い。その高さをそのまま捉えてよいのか、中身の吟味が必要と感じる。 ・協働的・探究的な学びの充実に関して「キャリア教育」とある。

方針	掲載	意見
		学校の取組みなどを説明してもらわないと評価ができない。三郷では地域の歴史教育を行っており、私は下長尾を担当している。人生の中で、地区の歴史について説明を受ける機会はここしかないと感じる。自分の住んでいる地域の歴史を学ぶことは立派な「郷土への愛着と誇りを育む学びの充実」と言って良いと思う。そういった事例を紹介してもらいたい。 ・地元食材の使用割合が上がった部分は、天候の関係もあるだろうが、どうにか維持できれば良いと感じる。学校に栄養教諭がいると思うので、上手く連携しながら、児童生徒にも伝わると良いと思う。
基本方針３【家庭・地域との連携】	P54～	・「地域と共にある学校づくり」は、知っている・理解しているだけでは、できない。「小中学校と地域・家庭の連携が図れていると思う市民の割合」の 28%の数値はすごいと思う。現在のコミュニティスクール事業が始まった令和４年と比べ数値が変わっていないことからも、いかに難しいか分かる。 ・子どもが意見を言える環境があるかどうか分析した調査結果を期待する。子どもたちが生きがいを持って、ふるさと安曇野に住み、いつでも帰ってこられる場所、心の基礎となる場所になるための教育が大事だと思う。 ・親がスマホで社会情勢を認知している。そこで目立つのは先進的な取組みであり、「では安曇野市はどうか？」となる。これが経済的支援を要望する声に繋がっていることもあると思う。 ・「学校を核に」という考え方では目標の実現は難しい。私は「地域が核になる」が先にあり、後に学校に進んでいくと考えている。学校を核とすると人が集まらない。
基本方針４【生涯学習】	P62～	・公民館と博物館の講座参加数に見られる市民の学習意欲の高さは喜ばしい。今後も多様な機会を作ってほしい。一方で、講座の指導者が激減している。この確保だけではなくて育成も考えていただきたい。また、公民館の職員数はギリギリであるので、この点も考えていただきたい。 ・講座について、対面とオンラインのハイブリッド方式にしたのは良い。学びたい人が、年齢や障がい、生活環境などを理由にして

方針	掲載	意見
		諦めなくてはいけないという環境を作らないことが、生涯学習のユニバーサル化の第一歩だ。「これまで参加できなかった人が参加できるようになった」という視点が必要になるのではないか。市の生涯学習を考えるうえで、誰が参加しにくいのか、どうすればその人が参加できるのかを意識してもらうと、生涯を通じ学ぶ喜びを実感できる地域が実現していくと思う。 ・改善点にアンケートの実施をするとあるので、初めて参加したという人の自由記述で、こういうことをやってもらったから参加できました、というようなところを紹介してもらうと良い。

２　総括

安曇野市教育振興基本計画策定検討委員会の委員からは、指標の数値の背景にある実態への目配りや、地域・家庭との連携の深化などについて示唆に富む意見が寄せられた。特に、数値の改善を直ちに成果と捉えるのではなく、その指標が捉えきれていない課題にも留意すべきとの指摘は、本市教育事務の点検・評価の質を高める上で重要である。

一方で、こうした課題への対応は、優先順位を見極めながら進める必要がある。教育委員会としては、これらの意見を踏まえ、限られた行政資源を効果的に活用しながら、学校・地域・家庭が有する既存の力を有効に結び付けることで、支援を要する皆様を可能な限り捕捉できるよう努めてまいりたい。

（以　上）